



「ざっくりイメージで把握する

最新種牡馬ファイル 2022」

presented by KAZ@競馬はビジネスである



～はじめに～

これをお読みいただいている方は、当ブログ及びメルマガをご贖いいただいているかたがほとんどかと思われます。そんな方ならお分かりかと思いますが、わたくし KAZ は血統データを基にして予想をするスタイルではありません。買いたい馬がいれば血統的には合わない馬でも買いますし、このコースだからこの血統を買うというような血統の期待値予想もあんまりやりません。

ただ、そんな血統が予想ファクターのベースではない私でもある程度の血統の知識はわかります。そして、血統を予想のメインファクターとして使わないとしても、これから競馬を長く楽しんでいく上で、競馬で高い回収率を目指す上でざっくりとした血統の知識を知っておく必要はあると思います。

そんなわけで、今回は私が常日頃から色々な種牡馬に対してざっくり抱いているイメージを文章としてまとめてみました。血統が何もわからない！という方はまずたくさん書籍で発行されている血統入門書をお読みいただいた方がいいと思います。もちろん私は血統の専門家ではないので、ここに書かれているのはデータに裏付けされたことではなく「ざっくりとした私 KAZ のイメージ」です。このコースでこの血統の複勝率は何パーセント・・・などといった精密な数字を出すことはできませんが、ざっくりとそれぞれの種牡馬のイメージを知っておくことで、

「この血統の馬は今は大したことない走りでも徐々に成長していきそうだな」

「この血統の馬は完成するのが遅そうだから POG で指名するのはやめておこうかな」

「この血統の馬はまだ東京の軽い芝しか使われてなくて惨敗続きだけどタフな中山で変わるかも」

などといった競馬の全体のイメージが掴めるようになってくるはずです。

もし、これで血統にさらに興味を持たれたならば本格的に血統予想の道に進むのもよし。私のように予想ファクターの一つとして血統も楽しみながら競馬予想を続けていくというのもよし。さまざまな方がいらっしやると思いますが、有用にご活用いただければ嬉しい限りです。

KAZ

目次

はじめに	1
------	---

【絶対に知っておくべきリーディング上位 30 の種牡馬】

ディーピンパクト	5
ロードカナロア	6
ハーツクライ	7
キズナ	8
キングカメハメハ	9
エピファネイア	10
ルーラーシップ	11
オルフェヴル	12
ダイワメジャー	13
ヘニーヒューズ	14
ドゥラメンテ	15
モーリス	16
スクリーンヒーロー	17
キンシャサノキセキ	18
ハービンジャー	19
ジャスタウェイ	20
シニスターミニスター	21
ゴールドシップ	22
パイロ	23
リオンディーズ	24
ブラックタイド	25
クロフネ	26
エイシンフラッシュ	27
ヴィクトワールピサ	28
アイルハヴアナザー	29
ゴールドアリュール	30
ミッキーアイル	31
マジェスティックウォリアー	32
ディープブリランテ	33
サウスヴィグラス	34

【これからリーディングを賑わす新興種牡馬たち】

ホッコータルマエ	36
ドレフォン	37
シルバーステート	38
キタサンブラック	39

【リーディング下位ながら覚えておきたい種牡馬たち】

バゴ	41
ステイゴールド	42
マクフィ	43
ノヴェリスト	44
カレンブラックヒル	45
ディスクリートキャット	45
アドマイヤムーン	46
リアルインパクト	46
マツリダゴッホ	47
ダンカーク	47
アジアエクスプレス	48
フランケル	48
ネオユニヴァース	49
ドリームジャーニー	49
タートルボウル	50
スパイツタウン	50
ダノンレジェンド	51
エイシンヒカリ	51
アメリカンファラオ	52
イスラボニータ	52
ローズキングダム	53
フリオーソ	53
モンテロッソ	54
エスケンデレヤ	54
アメリカンペイトリオット	55
サトノアラジン	55



絶対に知っておくべき リーディング上位 30 の種牡馬



【2021年 種牡馬リーディング1位】

ディーブインパクト

牝馬は完全無欠な優等生キャラ。牡馬は限りあるポテンシャルをどの時期に発揮させるかがポイント

父	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿（米）	Halo 1969年（米）	Hail to Reason 1958年	Turn-to Nothridchance	Royal Charger Source Sucree Blue Swords Galla Colors
			Cosmah 1953年	Cosmic Bomb Almahmoud	Pharamond Banish Fear Mahmoud Arbitrator
産駒一覧 産駒戦歴	ディーブインパクト Deep Impact 牡 19歳 父 16歳・母 11歳時産駒 2002年 鹿毛（早来町）	Wishing Well 1975年	Understanding 1963年	Promised Land Pretty Ways	Palestinian Mahmoudess Stymie Pretty Jo
			Mountain Flower 1964年	Montparnasse Edelweiss	Gulf Stream Mignon Hillary Dowager
母	*ウインドインハーヘア Wind In Her Hair 1991年 鹿毛（愛）	Alzao 1980年	Lyphard 1969年（米）	Northern Dancer Goofed	Nearctic Natalma Court Martial Barra
			Lady Rebecca 1971年	Sir Ivor Pocahontas	Sir Gaylord Attica Roman How
		Burghclere 1977年	Busted 1963年（英）	Crepello Sans Le Sou	Donatello Crepuscule Vimy
			Highclere 1971年	Queen's Hussar Highlight	Martial Loan March Past Jojo Borealis Hypericum

今をとぎめくナンバーワン種牡馬。牡馬と牝馬どちらも日本では最高峰のポテンシャルを秘めている産駒が多いが、その傾向は大きく異なる。

牝馬はジェンティルドンナ、グランアレグリアなどを見ても、クラシック期間から活躍して古馬になっても凄まじいパフォーマンスを披露することが可能。特に弱点はない完全無欠な優等生キャラになりやすい。

一方で牡馬に関しては取り扱いに注意が必要。キャリアの中で発揮できるポテンシャルには限界値がある感じで、それを早い時期に発揮させすぎると古馬になってから萎れてしまう馬が多い。（キズナ、マカヒキ、ディーマジェスティ、サトノダイヤモンド、ワグネリアンなど）現4歳世代ではシャフリヤールの今後は少し心配。

遅咲きの欧州血統をつけてゆっくりと馬の成長にあわせてじっくりと育てていけば、古馬になってからも大舞台で戦えるような馬に育つ印象です。（スピルバーグ、フィエールマンなど）

もう孫世代の産駒が走るようになってきましたが、ディーブの黄金配合と言える母父ストームキャットの後継種牡馬たち（キズナ、エイシンヒカリ、サトノアラジン）は軒並みストームキャットが主張しすぎてキレよりもスピードや持続力が売りの種牡馬になる傾向が出ています。

【2021年 種牡馬リーディング2位】

ロードカナロア

キングカメハメハの正当後継種牡馬。父同様に母馬の個性を引き出すが、基本的に

はスピードタイプの馬が多い

父	産駒一覧 産駒戦歴 キングカメハメハ King Kamehameha 2001年 鹿毛（早来町）	Kingmambo 1990年（米）	Mr. Prospector 1970年（米）	Raise a Native Gold Digger	Native Dancer Raise You Nashua Sequence Northern Dancer Special Prove Out Santa Quilla
	産駒一覧 産駒戦歴 ロードカナロア Lord Kanaloa 牡 13歳 父 7歳・母 12歳時産駒 2008年 鹿毛（新ひだか町）	*マンファス Manfath 1991年 黒鹿（愛）	Last Tycoon 1983年	Try My Best Mill Princess	Northern Dancer Sex Appeal Mill Reef Irish Lass Hethersett Windmill Girl Green Dancer Khazaeen Nearctic Natalma New Providence Shining Sun Bold Ruler Somethingroyal Crimson Satan Bolero Rose Ribot Flower Bowl Tudor Minstrel Swoon's Tune Intentionally My Dear Girl Riva Ridge Syrian Sea
母	産駒一覧 産駒戦歴 レディブlossam Lady Blossom 1996年 鹿毛（千歳市）	Storm Cat 1983年（米）	Pilot Bird 1983年	Blakeney The Dancer	Blakeney The Dancer
	産駒一覧 産駒戦歴 *サラトガデュー Saratoga Dew 1989年 鹿毛（米）	Storm Bird 1978年（加）	Terlingua 1976年	Secretariat Crimson Saint	Secretariat Crimson Saint Bolero Rose Ribot Flower Bowl Tudor Minstrel Swoon's Tune Intentionally My Dear Girl Riva Ridge Syrian Sea
		Cormorant 1974年	Super Luna 1982年	His Majesty Song Sparrow In Reality Alada	His Majesty Song Sparrow In Reality Alada

ディープインパクト、キングカメハメハが亡くなった今、今後数年の日本競馬界の中心は間違いなくロードカナロアだろう。多数の活躍馬を産んだキングカメハメハの系統の中でも正当な種牡馬と言って良さそうで、父同様に母馬の個性を引き出す傾向。母フサイチパンドラの良さを出したアーモンドアイ、母シーザリオの良さを出したサートゥルナーリアなど、ロードカナロアの現役時代のイメージにはないような条件でも走る馬を輩出している。

「キングカメハメハからちょうど400m ぐらい距離適性を短くしたような種牡馬」と考えるのが良さそうな感じ。アーモンドアイやサートゥルナーリアを出していることから最初はクラシックディスタンスを使われる馬も多いが、結局は短距離馬でしたという馬も多い。特に母系にサンデーサイレンスを持たずにスピードを主張する血統がある場合はスピードを活かしてこそその短距離馬になりやすい。下級条件での距離短縮での一変には注意した方がいいだろう。

【2021年 種牡馬リーディング3位】

ハーツクライ

実直にトニービンの良さを産駒に伝えるロングスパートマスター

父	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿（米）	Halo 1969年（米）	Hail to Reason 1958年	Turn-to Nothirdchance	Royal Charger Source Sucree Blue Swords Galla Colors
			Cosmah 1953年	Cosmic Bomb Almahmoud	Pharamond Banish Fear Mahmoud Arbitrator
母	産駒一覧 産駒戦歴 ハーツクライ Heart's Cry 牡 20歳 父 15歳・母 11歳時産駒 2001年 鹿毛（千歳市）	Wishing Well 1975年	Understanding 1963年	Promised Land Pretty Ways	Palestinian Mahmoudess Stymie Pretty Jo
		*トニービン Tony Bin 1983年 鹿毛（愛）	Mountain Flower 1964年	Montparnasse Edelweiss	Gulf Stream Mignon Hillary Dowager Zeddaan
母	アイリッシュダンス Irish Dance 1990年 鹿毛（千歳市）	*ピューパーダンス Buper Dance 1983年 黒鹿（米）	Kampala 1976年	Kalamoun State Pension	Khairunissa Only For Life Lorelei
			Severn Bridge 1965年	Hornbeam Priddy Fair	Hyperion Thicket Preciptic Campanette
母			Lyphard 1969年（米）	Northern Dancer Goofed	Nearctic Natalma Court Martial Barra
			My Bupers 1967年	Bupers Princess Revoked	Double Jay Busanda Revoked Miss Muffet

サンデーサイレンス系の主要種牡馬の中では数少ないトニービンを色濃く含有する血統背景。もうそのトニービンの色を実直に産駒に伝えている印象で、ディープインパクト産駒ほどはスパッとキれる脚は使えないが、その分バテずにずっと長く良い脚を使うことができる産駒が多い。東京コースが得意な馬や直線が長いコースが得意な馬が多いのもこのロングスパート適性のためだろう。

トニービンのスタミナだけでなく成長力も強く受け継いでいるのがこの血統の特徴で、ジャスタウェイ、リスグラシュー、シュヴァルグランなど、クラシック期はそこまででもなかったような馬が古馬になってあるタイミングで一気に成長してスーパーホースになることもしばしば。それは母父に入っても影響力はある感じで、最近ではケイデンスコールが母父ハーツクライで5歳になって一気に本格化してきた感じた。

基本的には芝2000m～2400mぐらいがベスト条件の馬が多いと思うが、現代競馬では2500m以上を得意としているステイヤーキャラの馬が少ないために相対的に長距離での成績が良くなっている感じ。ある程度、前半から中盤でタメを効かせつつ、途中からロングスパート勝負に持ち込めるような条件ではとにかく強いと覚えておきたい。

【2021年 種牡馬リーディング4位】

キズナ

機動力と持続力に優れた早熟トライアル血統

父	産駒一覧 産駒戦歴 ディープインパクト Deep Impact 2002年 鹿毛（早来町）	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿（米）	Halo 1969年（米）	Hail to Reason Cosmah	Turn-to Nothirdchance
			Wishing Well 1975年	Understanding Mountain Flower	Cosmic Bomb Almahmoud Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss
母	産駒一覧 産駒戦歴 キズナ Kizuna 牡 11歳 父 8歳・母 20歳時産駒 2010年 青鹿（新冠町）	*ウインドインハーヘア Wind In Her Hair 1991年 鹿毛（愛）	Alzao 1980年	Lyphard Lady Rebecca	Northern Dancer Goofed Sir Ivor Pocahontas
		Storm Cat 1983年（米）	Burghclere 1977年	Busted Highclere	Crepello Sans Le Sou Queen's Hussar Highlight Nearctic Natalma
	*キャットクイル Catequil 1990年 鹿毛（加）		Storm Bird 1978年（加）	Northern Dancer South Ocean	New Providence Shining Sun Bold Ruler Somethingroyal
		Pacific Princess 1973年	Terlingua 1976年	Secretariat Crimson Saint	Crimson Satan Bolero Rose Sunglow Highland Fling
			Damascus 1964年	Sword Dancer Kerala	My Babu Blade of Time
			Fiji 1960年	Acropolis Rififi	Donatello Aurora Mossborough Khanum

瞬発力に優れたディープインパクトの産駒で、自身も現役時代は日本ダービーを大外一気で制したように切れ味が売りだった。それが種牡馬になってからはどうも自身とは若干異なるイメージの馬を多数輩出しており、母系のダート血統が強く主張しすぎてディープインパクトっぽさが少し薄れている感じがします。

産駒の特徴は「完成度が早い」「先行力、機動力がある」「持続力がある」の3点。2歳時から前に行って渋とい脚が使えるので早い時期の重賞での活躍が顕著。一方でディープインパクトに比べると切れ味は劣るので、超一流の馬が揃うGIレースになると決め手不足でパフォーマンスを落とす馬が多い。

そんな産駒の特徴があるために、とにかくトライアルレースに強いというのがキズナ産駒の傾向。マルターズデ
ィオサ（チューリップ賞、紫苑S）、ディープボンド（京都新聞杯）、バスラットレオン（ニュージーランドトロ
フィー）、ファイナルージュ（フェアリーS）、アブレイズ（フラワーC）、クリスタルブラック（京成杯）など
ど、とにかく早い時期のトライアル戦でこそキズナ産駒は強調できる。

2021年シーズンに活躍した馬を見ても、エリザベス女王杯でワンツーしたアカイトとステラリア。有馬記
念で2着に入ったディープボンドなど、非根幹距離を得意にしている馬が多い。ソングラインやファイナルージュ
など牝馬なら根幹距離の決め手勝負にも対応できるようだ。

【2021年 種牡馬リーディング5位】

キングカメハメハ

どんな条件の名馬も輩出した完全無欠なオールラウンダー

父	Kingmambo 1990年（米）	Mr. Prospector 1970年（米）	Raise a Native	Native Dancer	Polynesian
			1961年（米）	Raise You	Geisha
			Gold Digger	Nashua	Case Ace
			1962年	Sequence	Lady Glory
産駒一覧 産駒戦歴	キングカメハメハ King Kamehameha 牡 20歳 父 11歳・母 10歳時産駒 2001年 鹿毛（早来町）	Miesque 1984年	Nureyev	Northern Dancer	Nasrullah
			1977年（米）	Special	Segula
			Pasado ble	Prove Out	Count Fleet
			1979年	Santa Quilla	Miss Dogwood
母	*マンファス Manfath 1991年 黒鹿（愛）	Last Tycoon 1983年	Try My Best	Northern Dancer	Nearctic
			1975年	Sex Appeal	Natalma
			Mill Princess	Mill Reef	Buckpasser
			1977年	Irish Lass	Best in Show
母	Pilot Bird 1983年	Blakeney	Hethersett	Never Bend	
		1966年（英）	Windmill Girl	Milan Mill	
		The Dancer	Green Dancer	Sayajirao	
		1977年	Khazaeen	Scollata	

ここ10年ほどディープインパクトと双璧を成してきた大種牡馬。重賞数こそディープインパクトに遅れをとっているが、キングカメハメハの恐ろしいところはどんなジャンルにも名馬を輩出したオールラウンダーとしての素質だろう。

芝の王道路線ではドゥラメンテ、レイデオロのダービー馬を2頭輩出。短距離路線ではロードカナロアという歴史的名馬を産みまし、ダート路線でもホッコータルマエという稀代の名馬を輩出。牡馬だけでなく牝馬でも3冠馬アパパネを輩出しましたし、どんなジャンルにでも対応するオールラウンダーとしての素質は凄まじいものがあったと思います。

ここまで色んなジャンルの馬を輩出できたのは母馬の個性を強く引き出すことができるから。サンデーサイレンス系の牝馬をつけるとキレの中距離馬を、スピード血統をつけると短距離馬を、ダート血統をつけるとダート馬を産み出す傾向があり、一概にキングカメハメハ産駒と言ってもその個性は千差万別といったところか。

あえて全体的なキャラクター傾向を語るとすればどの馬もコーナーが上手いという点か。コーナー4回の中距離戦を得意としている産駒が多く、2017年の札幌記念はキングカメハメハ産駒のワンツースリーになりました。

最近では母父に入ることも多いが、非SS系の欧州血統の母父に入ることによってキレ味を引き出す産駒を産み出す傾向。ハービンジャーやエピファネイアなどの母父に入った時には大物を輩出する可能性が高い。

【2021年 種牡馬リーディング6位】

エピファネイア

シーザリオの偉大さを受け継いだ新時代のクラシック血統

父	産駒一覧 産駒戦歴 *シンボリクリスエス Symboli Kris S 1999年 黒鹿 (米)	Kris S. 1977年 (米)	Roberto 1969年 (米)	Hail to Reason Bramalea Princequillo Bridgework	Turn-to Nothridchance Nashua Rarelea Prince Rose Cosquilla Occupy Feale Bridge
	エピファネイア Epiphaneia 牡 11歳 父 11歳 母 8歳時産駒 2010年 鹿毛 (安平町)	Tee Kay 1991年	Gold Meridian 1982年 Tri Argo 1982年	Seattle Slew Queen Louie Tri Jet Hail Proudly	Bold Reasoning My Charmer Crimson Satan Reagent Jester Haze Francis S. Spanglet
母	産駒一覧 産駒戦歴 シーザリオ Cesario 2002年 青毛 (早来町)	スペシャルウィーク Special Week 1995年 黒鹿 (門別町)	*サンデーサイレンス 1986年 青鹿 (米) キャンペンガール 1987年 鹿毛 (門別町)	Halo Wishing Well マルゼンスキー レディーシラオキ	Hail to Reason Cosmah Understanding Mountain Flower Nijinsky *シル セントクレスピ ミスアジャガワ
		*キrovプリアミール Kirov Premiere 1990年 鹿毛 (英)	Sadler's Wells 1981年 (米) Querida 1975年	Northern Dancer Fairy Bridge Habitat Principia	Nearctic Natalma Bold Reason Special Sir Gaylord Little Hut Le Fabuleux Pia

現役時代は凄まじいポテンシャルを秘めながらどうもそのポテンシャルを上手く発揮できなかったようで、菊花賞とジャパンカップの2つのGIを制覇しただけで終わった。そんな現役時代のGI勝利数を初年度産駒のデアリングタクトだけで超えてしまい、2年目産駒のエフフォーリアも凄まじいポテンシャルの持ち主。アリストテレスも歴史的名馬さえいなければ菊花賞馬になっていましたから、エピファネイアの種牡馬としてのポテンシャルは相当なものだろう。

父シンボリクリスエスでロベルト系という血統になるが、これまで出てきた産駒の傾向からもロベルトよりはシーザリオの特徴を色濃く引き出している感じ。デアリングタクトこそ道悪の桜花賞を勝利したが、他の産駒はそこまで道悪馬場を得意としているイメージはありません。それでもここまで大物を連続して出している点を見てもロベルト系の底力は引き継いでいると考えるのが妥当か。

ちょうどデビュー年にディープインパクトとキングカメハメハが亡くなってしまったことでクラシック血統も新時代に変わっていきそうな感じ。その一角を担うのはロードカナロアと見て間違いなさだろうが、現時点でのクラシック条件での活躍からエピファネイアも王道クラシック血統になっていきそう。数年後は種牡馬エピファネイアがクラシックの中心になっているはずだ。

※これまでの産駒で見てきた弱点はダートと成長力。エピファネイア産駒はダートを走らない馬が多く、また2-3歳と4歳以上の成績を比較すると明らかに前者の方が期待値が高い。

【2021年 種牡馬リーディング7位】

ルーラーシップ

トニービンの色が濃いおかげで自身のキャラに似た馬を出す

父	産駒一覧 産駒戦歴 キングカメハメハ King Kamehameha 2001年 鹿毛（早来町）	Kingmambo 1990年（米）	Mr. Prospector 1970年（米）	Raise a Native Gold Digger	Native Dancer Raise You Nashua Sequence Northern Dancer Special Prove Out Santa Quilla
	産駒一覧 産駒戦歴 ルーラーシップ Rulership 牡 14歳 父 6歳・母 14歳時産駒 2007年 鹿毛（安平町）	*マンファス Manfath 1991年 黒鹿（愛）	Last Tycoon 1983年	Nureyev Pasadoble Try My Best Mill Princess Northern Dancer Sex Appeal Mill Reef Irish Lass	Hethersett Windmill Girl Green Dancer Khazaeen Zeddaan Khairunissa Only For Life Lorelei
母	産駒一覧 産駒戦歴 エアグルーヴ Air Groove 1993年 鹿毛（早来町）	*トニービン Tony Bin 1983年 鹿毛（愛）	Kampala 1976年	Kalamoun State Pension Hornbeam Pridy Fair Northern Dancer Lady Victoria ガーサント *バロクサイド	Hyperion Thicket Preciptic Campanette Nearctic Natalma Victoria Park Lady Angela Bubbles Montagnana Never Say Die Feather Ball
		ダイナカル Dyna Carle 1980年 鹿毛（白老町）	Severn Bridge 1965年	*ノーザンテスト 1971年 栗毛（加）	
			シヤダイフエザー 1973年 鹿毛（千葉県）		

ルーラーシップ自身はクラシック期間には活躍できず、古馬になってから本格化。それでも GI を勝ったのはクイーンエリザベス II 世カップだけでしたし、日本の GI では出遅れ癖もあって勝利することができなかった。そんな自身の適性を産駒も受け継いでいる感じで、不器用でゆったりと走れるロングスパート条件が得意な馬が多い。キングカメハメハは母型の良さを引き出す傾向が強い種牡馬だったが、ルーラーシップはそのキングカメハメハの引き出し型の傾向以上にトニービンの血の強さが前面に出ている感じで、産駒もそのようなキャラが多くなってしまっているか。

ようやく初年度産駒が引退するぐらいの時期になっているが、若駒時はキレる末脚が使える馬でも高齢になるとキングカメハメハの硬さとトニービンのズブさが前面に出てくる感じで、決め手に欠けるスタミナ型になってくる印象。キセキやウラヌスチャームの晩年がまさにそんな感じで、キャリアを重ねるにつれて馬のキャラが変化していくイメージは持っておきたい。

【2021年 種牡馬リーディング8位】

オルフェーヴル

一瞬の脚を活かしてこそそのタメ差しキャラを数多く輩出

父	産駒一覧 産駒戦歴 ステイゴールド Stay Gold 1994年 黒鹿（白老町）	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿（米）	Halo 1969年（米）	Hail to Reason Cosmah	Turn-to Nothirdchance
			Wishing Well 1975年	Understanding Mountain Flower	Cosmic Bomb Almahmoud Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss
母	産駒一覧 産駒戦歴 オルフェーヴル Orfevre 牡 13歳 父 14歳 母 11歳時産駒 2008年 栗毛（白老町）	ゴールデンサッシュ Golden Sash 1988年 栗毛（白老町）	*デイクタス 1967年 栗毛（仏）	Sanctus Doronic	Fine Top Sanelta Worden Dulzetta
			ダイナサッシュ 1979年 鹿毛（早来町）	*ノーザンテスト *ロイヤルサッシュ	Northern Dancer Lady Victoria Princely Gift Sash of Honour
母	産駒一覧 産駒戦歴 オリエンタルアート Oriental Art 1997年 栗毛（白老町）	メジロマックイーン Mejiro McQueen 1987年 芦毛（浦河町）	メジロテイターン 1978年 芦毛（伊達市）	メジロアサマ *シエリル	*パーソロン *スポート Snob Chanel
			メジロオーロラ 1978年 栗毛（伊達市）	*リマンド メジロアイリス	Alcide Admonish ヒンドスタン アサマユリ
母		エレクトロアート Electro Art 1986年 栗毛（早来町）	*ノーザンテスト 1971年 栗毛（加）	Northern Dancer Lady Victoria	Nearctic Natalma Victoria Park Lady Angela
			*グランマステイヴンス 1977年 栗毛（米）	Lt. Stevens Dhow	Nantallah Rough Shod Bronze Babu Coastal Trade

現役時代のイメージを持っていると阪神大賞典の漫画みたいな走りからスタミナ十分の印象が強いと思うが、どうも産駒はタメで一瞬の脚を使って良さが出るタイプが多い。代表産駒に挙げられるエポカドーロやジャスティンはどちらかといえば例外な感じで、それ以外の馬のキャラクターをちゃんと見た方がいいだろう。

ラッキーライラックも早い時期から積極策の競馬でも活躍してきたが、本格化したのは4歳秋のエリザベス女王杯でスミヨン騎手が溜める戦法を見せてから。この馬も結局はタメで一瞬の脚を活かしてこそその馬だったか。それ以外の産駒を見ても、オセアグレイト、サラス、タガノディアマンテ、アンドラス、オーソリティ、バイオスパーク、ショウリュウイクゾなど、道中でひと溜めを効かせて末脚を引き出す競馬が合うタイプが多い。本質的にはオルフェーヴル由来のスタミナも備えているんだろうが、集中力に欠ける馬が多いためにだらっと脚を使わせるような競馬は合わないのかもしれない。

そんなわけでオルフェーヴル産駒は騎手によって成績がガラリと変わる可能性あり。若駒時にはとる戦法によって一気にパフォーマンスを上げたり下げたりする可能性があるので、そのあたりに注意して付き合っていきたい。

2021年はマルシュロレーヌがBC制覇。ジャスティンやヘリオスなどダートで走る馬も多く出ており、日本のダート血統の主流になる可能性もあるだろう。

【2021年 種牡馬リーディング9位】

ダイワメジャー

前に行ってバテずに粘る穴党の味方の早熟持続力タイプ

父	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿 (米)	Halo 1969年 (米)	Hail to Reason 1958年	Turn-to	Royal Charger Source Sucree Blue Swords Galla Colors Pharamond Banish Fear Mahmoud Arbitrator Palestinian Mahmoudess Stymie Pretty Jo Gulf Stream Mignon Hillary Dowager Nearco Lady Angela Native Dancer Almahmoud Chop Chop Victoriana Hyperion Sister Sarah Balladier Mata Hari Requiebro Papalona Bull Lea Bee Mac Royal Charger Your Hostess
		Wishing Well 1975年	Cosmah 1953年	Nothirchance Cosmic Bomb Almahmoud Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss Nearctic Natalma Victoria Park Lady Angela Spy Song Papila Beau Max La Menina	
産駒一覧 産駒戦歴					
ダイワメジャー					
Daiwa Major 牡 20歳 父 15歳 母 13歳時産駒 2001年 栗毛 (千歳市)					
母	スカーレットブーケ Scarlet Bouquet 1988年 栗毛 (千歳市)	*ノーザンテスト Northern Taste 1971年 栗毛 (加)	Northern Dancer 1961年 (加)		
		*スカーレットインク Scarlet Ink 1971年 栗毛 (米)	Lady Victoria 1962年 Crimson Satan 1959年 (米) Consentida 1962年		

半妹に歴史的牝馬のダイワスカーレットがいるスカーレット一族の最高傑作の一頭。この一族はダイワスカーレットもそうだが、キレる脚はないぶんバテずにずっと伸びる持続力が売り。その傾向は産駒にも受け継がれており、ディープインパクト産駒のような派手な末脚は使えないが、前に行ってバテない持続力は日本の中でも最上位と言っているだろう。

完成度が高いので2歳時から活躍できる馬が多く、前に行けてバテない馬が多いので早い時期のオープンや重賞で穴を開ける馬が多数。GIを勝つような大物も基本的にはこういうキャラの馬の上位互換版がほとんどで、脚を溜める戦法でGIで活躍したのはシゲルピンクダイヤぐらいなもんじゃないだろうか。

キレがない血統なので母方にはキレやスピードを補う血統をつけた方がいいのかとも思うが、大物が多く誕生しているのは母系に欧州スタミナ血統をつける配合。ロベルト、トニービン、サドラーズウェルズなどを母方に持っている馬に大物が出やすい傾向で、特にサドラーズウェルズ持ちはメジャーエンブレム、レシステンシア、シゲルピンクダイヤなど大物が多い印象です。

【2021年 種牡馬リーディング10位】

ヘニーヒューズ

ザ・アメリカの早熟スピード血統

父	Hennessy 1993年 (米)	Storm Cat 1983年 (米)	Storm Bird 1978年 (加)	Northern Dancer	Nearctic Natalma
			Terlingua 1976年	South Ocean	New Providence Shining Sun
母	*ヘニーヒューズ Henny Hughes 牡 18歳 父 10歳 母 14歳時産駒 2003年 栗毛 (米)	Island Kitty 1976年	Hawaii 1964年	Secretariat	Bold Ruler Somethingroyal
			T. C. Kitten 1969年	Crimson Saint	Crimson Satan Bolero Rose
	Meadow Flyer 1989年	Meadowlake 1983年	Hold Your Peace 1969年	Utrillo	Toulouse Lautrec Urbarella
			Suspicious Native 1972年	Ethane	Mehrali Ethyl
		Shortley 1980年	Hagley 1967年	Tom Cat	Tom Fool Jazz Baby
			Short Winded 1965年	Needlebug	Needles Flynet
				Speak John	Prince John Nuit de Folies
				Blue Moon	Eight Thirty Blue Grail
				Raise a Native	Native Dancer Raise You
				Be Suspicious	Porterhouse Nothirchance
				Olden Times	Relic Djenne
				Teo Pepi	Jet Action Sherry L.
				Harvest Singing	Nasrullah Meadow
				Wild Cloud	Alquest Psychic Cloud

いかにもなアメリカのダート短距離血統というべきキャラクターの持ち主。アメリカのクラシックは3歳の6月までに全ての日程が終了しますし、早い時期から高額賞金のレースが割とあります。そのためにアメリカ競馬の血統はいかに早く完成するかを重視して配合が重ねられてきました。その典型例の一つがこのヘニーヒューズじゃないでしょうか。

とにかく2歳時からバリバリに動けるのが特徴で、年齢を重ねるごとに完成度のアドバンテージがなくなって尻すぼみの成績になる傾向。中央競馬で言えば2歳で芝のGIまで勝利したアジアエクスプレスや、勢いでフェブラリーステークスを勝利したがそれ以降に尻すぼみとなったモーニンが代表産駒。地方競馬で言えば圧倒的なスピードと完成度で2歳時に圧巻のパフォーマンスを見せたアランバローズが代表産駒になります。

【2021年 種牡馬リーディング11位】

ドゥラメンテ

キンカメの後継候補も飽和配合でつけられる良血牝馬がなかなかいない

父	産駒一覧 産駒戦歴 キングカメハメハ King Kamehameha 2001年 鹿毛（早来町）	Kingmambo 1990年（米）	Mr. Prospector 1970年（米）	Raise a Native Gold Digger	Native Dancer Raise You Nashua Sequence
			Miesque 1984年	Nureyev Pasadoble	Northern Dancer Special Prove Out Santa Quilla
母	産駒一覧 産駒戦歴 ドゥラメンテ Duramente 牡 9歳 父 11歳・母 12歳時産駒 2012年 鹿毛（安平町）	*マンファス Manfath 1991年 黒鹿（愛）	Last Tycoon 1983年	Try My Best Mill Princess	Northern Dancer Sex Appeal Mill Reef Irish Lass
			Pilot Bird 1983年	Blakeney The Dancer	Hethersett Windmill Girl Green Dancer Khazaeen
母	産駒一覧 産駒戦歴 アドマイヤグルーヴ Admire Groove 2000年 鹿毛（早来町）	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿（米）	Halo 1969年（米）	Hail to Reason Cosmah	Turn-to Nothridchance Cosmic Bomb Almahmoud
			Wishing Well 1975年	Understanding Mountain Flower	Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss
母		エアグルーヴ Air Groove 1993年 鹿毛（早来町）	*トニービン 1983年 鹿毛（愛）	Kampala Severn Bridge	Kalamoun State Pension Hornbeam Priddy Fair
			ダイナカール 1980年 鹿毛（白老町）	*ノーザンテースト シャダイエザー	Northern Dancer Lady Victoria ガーサント *パロクサイド

近代日本競馬を変えた血統、ノーザンテースト、トニービン、サンデーサイレンス、キングマンボの全ての血を持っており、なおかつ自身が皐月賞とダービーの2冠という圧倒的なキャリア。どこからどう見てもエリート種牡馬になるはずなのだが、あまりにも日本の血統を詰め込みすぎた配合のためにつけられる牝馬が少ない。

まだ2世代しかサンプルがないが、どうも父同様に気性が怪しい馬が多く口向きに課題がある産駒が多数。代表産駒のタイトルホルダーもクロス鼻革着用までスムーズに走らせることができませんでしたし、キングストーンボーイという馬も藤沢厩舎で急かさずに成長を待たれているからいいものの、レースぶりから狂気は秘めている印象。他にもレインフロムヘブンが気性難で出世が狂いましたし、ファルヴォーレが短距離でも折り合いに苦労しているなど産駒全体に狂気のイメージがあります。

※ここに来て古馬のドゥラメンテ産駒が多くなってきたことで目立つのが晩成傾向。キングマンボ系とトニービンの良さを受け継いでいる感じで、産駒は使うごとにどんどん強くなって古馬で完成する。溜めてスパッとキれる馬よりもスピードの持続力を活かして良い馬が多く、その代表例がいまや日本最強馬に君臨するタイトルホルダーという感じです。

【2021年 種牡馬リーディング12位】

モーリス

あくまでも父は突然変異、産駒はロベルトとサドラーの血が出た持続力型

父	産駒一覧 産駒戦歴 <u>スクリーンヒーロー</u> Screen Hero 2004年 栗毛（千歳市）	<u>*グラスワンダー</u> Grass Wonder 1995年 栗毛（米）	Silver Hawk 1979年（米） Ameriflora 1989年	Roberto Gris Vitesse Danzig Graceful Touch	Hail to Reason Bramalea Amerigo Matchiche Northern Dancer Pas de Nom His Majesty Pi Phi Gal
	産駒一覧 産駒戦歴 モーリス Maurice 牡 10歳 父 7歳・母 10歳時産駒 2011年 鹿毛（日高町）	<u>ランニングヒロイン</u> Running Heroine 1993年 鹿毛（千歳市）	<u>*サンデーサイレンス</u> 1986年 青鹿（米） <u>ダイナアクトレス</u> 1983年 鹿毛（千歳市）	Halo Wishing Well *ノーザンテースト モデルズボート	Hail to Reason Cosmah Understanding Mountain Flower Northern Dancer Lady Victoria モデルフル *マジックゴデイス
母	<u>メジロフランス</u> Mejiro Frances 2001年 鹿毛（伊達市）	<u>*カーネギー</u> Carnegie 1991年 鹿毛（愛）	Sadler's Wells 1981年（米） Detroit 1977年	Northern Dancer Fairy Bridge Riverman Derna	Nearctic Natalma Bold Reason Special Never Bend River Lady Sunny Boy Miss Barberie
		<u>メジロモンレー</u> Mejiro Monterey 1986年 黒鹿（浦河町）	<u>*モガミ</u> 1976年 青鹿（仏） <u>メジロクインシー</u> 1981年 鹿毛（伊達市）	Lyphard No Luck フィデイオン メジロボサツ	Northern Dancer Goofed Lucky Debonair No Teasing Djakao Thessalie *モンタガール メジロクイン

スクリーンヒーローが社台スタリオンから出されたにも関わらず、その産駒のあまりの出来の良さからセールでノーザンファームが買い戻したというのがモーリスの現役時代の経緯。そのエピソードだけ聞いても、よほど身体能力が優れた馬だったんでしょうし、その素質を堀調教師という稀代の名伯楽によって引き出されたのがこのモーリスという馬です。およそ父ロベルト×母父サドラーズウェルズという血統イメージを遥かに超えた走りを見せていましたし、父は完全に突然変異だったと見ていいか。

その圧倒的な成績と色々な牝馬につけやすいという血統背景で初年度からノーザンファームの絶対的なバックアップを受けていますが、最初は微妙な滑り出し。種牡馬としての先行きが危ぶまれましたが、昨秋にピクシーナイトが待望の産駒初GI制覇。そのピクシーナイトが産駒のイメージそのままという感じで、ロベルト由来の雄大な馬体でパワーとスピードを兼ね備えている馬が多い。ちょうど激流の1400mを地力で押し切るような馬が多い。

距離的には1200mから2000mくらいで、配合や育成厩舎によってキャラは様々。ただ基本的には前向きでスピードとパワーを備えた馬が多い感じだ。

※ここに来てジャックドール、ノースブリッジ、トゥーフェイスが古馬になって本格化。晩成でロベルト由来の持続力を活かして良い先行馬が多く、イメージはドゥラメンテ産駒に近い。ドゥラメンテよりも若干パワー寄りの晩成持続力血統と覚えておきたい。

【2021年 種牡馬リーディング13位】

スクリーンヒーロー

モーリスは例外、基本はロベルトらしい持続力系を生む

父	産駒一覧 産駒戦歴 *グラスワンダー Grass Wonder 1995年 栗毛 (米)	Silver Hawk 1979年 (米)	Roberto 1969年 (米)	Hail to Reason Bramalea Amerigo Matchiche Northern Dancer Pas de Nom His Majesty Pi Phi Gal Hail to Reason Cosmah Understanding Mountain Flower Northern Dancer Lady Victoria モデルフル *マジックゴデイス	Turn-to Nothrdchance Nashua Rarelea Nearco Sanlinea Mat de Cocagne Chimere Fabuleuse Nearctic Natalma Admiral's Voyage Petitioner Ribot Flower Bowl Raise a Native Soaring Turn-to Nothrdchance Cosmic Bomb Almahmoud Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss Nearctic Natalma Victoria Park Lady Angela Tom Fool Model Joy Red God Like Magic
	産駒一覧 産駒戦歴 スクリーンヒーロー Screen Hero 牡 17歳 父 9歳・母 11歳時産駒 2004年 栗毛 (千歳市)	Ameriflora 1989年	Gris Vitesse 1966年	Danzig 1977年 (米)	Graceful Touch 1978年
母	産駒一覧 産駒戦歴 ランニングヒロイン Running Heroine 1993年 鹿毛 (千歳市)	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿 (米)	Halo 1969年 (米)	Wishing Well 1975年	*ノーザンテースト 1971年 栗毛 (加)
		ダイナアクトレス Dyna Actress 1983年 鹿毛 (千歳市)	モデルズボート 1975年 黒鹿 (千葉県)		

安定感はないが時折大物を輩出するロベルト系の血らしく、スクリーンヒーロー産駒も安定感はないがゴールドアクター、モーリスなどの大物を既に輩出。エピファネイア系と並んで新時代のロベルト系を支えていく存在なのは間違いない。

代表産駒はモーリスになると思うが、あの馬は突然変異+堀厩舎の育成によって本来の血統イメージとは異なる成長をしたような感じ。スクリーンヒーロー産駒本来の特徴はロベルトとノーザンテーストを併せ持つ成長力と渋とさが売りなはずで、ゴールドアクターやウインマリリン、ジェネラーレウーノこそがスクリーンヒーロー産駒本来のイメージと言っていいだろう。

【2021年 種牡馬リーディング14位】

キンシャサノキセキ

晩成だった父とは真逆の早熟スピード血統

父	Fuji Kiseki	Sunday Silence	Halo	Hail to Reason	Turn-to		
	1992年			1986年	1969年 (米)	Cosmah	Nothirdchance
					Wishing Well	Understanding	Cosmic Bomb
			1975年	Mountain Flower	Almahmoud		
			Le Fabuleux	Wild Risk	Promised Land		
			1961年 (米)	Anguar	Pretty Ways		
		Millracer	Marston's Mill	In Reality	Montparnasse		
		1983年	1975年	Millicent	Edelweiss		
			His Majesty	Ribot	Rialto		
		Pleasant Colony	1968年	Flower Bowl	Wild Violet		
			Sun Colony	Sunrise Flight	Verso		
		1978年	1968年	Colonia	La Rochelle		
			Lyphard	Northern Dancer	Intentionally		
		Featherhill	1969年 (米)	Goofed	My Dear Girl		
			Lady Berry	Violon d'Ingres	Cornish Prince		
		1978年	1970年	Moss Rose	Milan Mill		
					Tenerani		
				Romanella	Alibhai		
				Flower Bed	Double Jay		
				Cockrullah	Misty Morn		
				Nalga	Cockrullah		
					Nearctic		
					Natalma		
					Court Martial		
					Barra		
					Tourment		
					Flute Enchantee		
					Mossborough		
					Damasi		

キンシャサノキセキ自体は南半球産で高齢になって短距離路線で活躍した馬。一方で産駒は典型的な早熟傾向が出ており、活躍の舞台のほとんどが2〜3歳重賞になっている。特に2歳重賞は他馬に比べての完成度が高いため活躍する馬がたくさん出ており、モンドキャンノ、シュウジなど早い時期から活躍している馬は何頭も名前が挙がる。

母父にリボーが入っているためかイメージよりも距離は持つ産駒が多く、最近ではガロアクリークやルフトシュトロームなどがマイル以上の距離の重賞を勝利。ただ、そのどちらにも言えることは、古馬になってからはまるで活躍できておらず、やはり距離の融通は効くにしてもピークは早い段階に来てしまう産駒が多いのかもしれない。

【2021年 種牡馬リーディング15位】

ハービンジャー

ヨーロッパ競馬ではキレ者扱い。日本競馬では雨上がりの馬場向きか

父	Dansili 1996年 (英)	Danehill 1986年 (米)	Danzig 1977年 (米)	Northern Dancer	Nearctic
			Razyana 1981年	Pas de Nom	Natalma
母	Penang Pearl 1996年	Hasili 1991年	Kahyasi 1985年	His Majesty	Admiral's Voyage
			Kerali 1984年	Spring Adieu	Petitioner
		Bering 1983年	Arctic Tern 1973年	Ile de Bourbon	Ribot
			Beaune 1974年	Kadissya	Flower Bowl
		Guapa 1988年	Shareef Dancer 1980年	High Line	Buckpasser
			Sauceboat 1972年	Sookera	Natalma
				Sea-Bird	Nijinsky
				Bubbling Beauty	Roseliere
				Lyphard	Blushing Groom
				Barbra	Kalkeen
				Northern Dancer	High Hat
				Sweet Alliance	Time Call
				Connaught	Roberto
				Cranberry Sauce	Irule
					Dan Cupid
					Sicalade
					Hasty Road
					Almahmoud
					Northern Dancer
					Goofed
					Le Fabuleux
					Biobelle
					Nearctic
					Natalma
					Sir Ivor
					Mrs. Peterkin
					St. Paddy
					Nagaika
					Crepello
					Queensberry

欧州競馬の最高峰であるキングジョージで凄まじいレコードを記録して突き抜けたのがハービンジャーの現役時代の最大のハイライト。産駒のディアドラも欧州の軽い馬場を好んでいましたし、タフな馬場のヨーロッパ競馬の中では軽い馬場でキレる脚を使ってこそその馬なんだろう。

一方で日本の競馬となると、やはりこの血統では高速馬場ではキレ負けしてしまう感じ。ヴィクトリアマイルをスーパーレコードで勝利したノームコアという例外こそいるが、それ以外の馬を見てもブラストワンピース、モズカッチャン、ディアドラなど、やはりある程度重い馬場での活躍が目立っている。

ただ、ハービンジャー自体がヨーロッパ競馬の中ではキレ者扱いということもあり、極端な道悪馬場になるとパフォーマンスを下げる馬も多い印象。走り時は雨上がりで乾きかけの時計がかかる馬場という感じで、そういう馬場になればディープインパクト産駒やロードカナロア産駒を上回る適性を見せて突っ込んでくる馬が多い。

2019年産のラインナップが素晴らしく、ナミュールやアライバルはクラシックを狙えるようなポテンシャルあり。ノーザンファームが育成のノウハウを掴んだようで、これからはより根幹距離の大レース向きの馬が出てくるかもしれない。

【2021年 種牡馬リーディング 16 位】

ジャスタウェイ

見栄えの良い馬っぷりの産駒多し、ハーツクライの距離適性短縮版

父	ハーツクライ Heart's Cry 2001年 鹿毛（千歳市）	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿（米）	Halo 1969年（米）	Hail to Reason Cosmah	Turn-to Nothrdchance Cosmic Bomb Almahmoud Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss
			Wishing Well 1975年	Understanding Mountain Flower	Kalamoun State Pension Hornbeam Priddy Fair Northern Dancer Goofed Bupers Princess Revoked Nearco Lady Angela Native Dancer Bold Irish Hyperion Eclair Dante Clovelly Golden Ruler Adds Up Pan Dancer Sandy's Toughie Sadair Wiggle Nodouble Blue Burst
母	ジャスタウェイ Just a Way 牡 12歳 父 8歳・母 10歳時産駒 2009年 鹿毛（浦河町）	アイリッシュダンス Irish Dance 1990年 鹿毛（千歳市）	*トニービン 1983年 鹿毛（愛）	Kampala Severn Bridge	
			*ビューパーダンス 1983年 黒鹿（米）	Lyphard My Bupers	
	シビル Sibyl 1999年 鹿毛（白老町）	Wild Again 1980年（米）	Ice capade 1969年	Nearctic Shenanigans	
			Bushel-n-Peck 1958年	Khaled Dama	
		*シャロン Charon 1987年 栗毛（米）	Mo Exception 1981年	Hard Work With Exception	
			Double Wiggle 1978年	Sir Wiggle Blue Double	

ヴェロックス、ダノンザキッドが現時点での代表産駒になるが、どちらも馬っぷりが抜群に良くて見栄えの良いシルエット。全体的にジャスタウェイ産駒は見栄えの良い産駒が多く、基本的な運動性能は相当に高いとみている。

父がハーツクライ産駒ながらマイル～2000mの距離を得意としていたこともでわかるように、ジャスタウェイ産駒もハーツクライ産駒よりは距離適性が短い感じ。父とイメージは似ているが、同じ母にハーツクライとジャスタウェイをつけるとだいたい400mぐらい距離適性が短くなる感じが。

当初は社台スタリオンに入れられたが、初期産駒の成績がいまいちだったためかブリーダーズスタリオンに出されることに。その後にダノンザキッドがGIを勝利して活躍することになったが、再び芝で活躍馬を出すには現役のダノンザキッドがこれから相当に活躍しなければ厳しいか。

母父がトランセンドと同じワイルドアゲインということでダート適性がある馬も出す傾向で、今後は繁殖の質が落ちることからもダート路線での活躍が目立ちそう。第2のマスターフェンサーやヴェルテックスを見つけるスタンスで接したほうが良さそうだ。

【2021年 種牡馬リーディング17位】

シニスターミニスター

使えば使うほど良くなるダート中距離の晩成血統

父	Old Trieste 1995年（米）	A.P. Indy 1989年（米）	Seattle Slew	Bold Reasoning	Boldnesian		
			1974年（米）	My Charmer	Reason to Earn		
			Weekend Surprise	Secretariat	Poker		
			1980年	Lassie Dear	Fair Charmer		
*シニスターミニスター Sinister Minister 牡 18歳　父 8歳・母 6歳時産駒 2003年　鹿毛（米）	産駒一覧　産駒戦歴	Lovlier Linda 1980年	Vigors	Grey Dawn	Bold Ruler		
			1973年	Relifordie	Somethingroyal		
			Linda Summers	Crozier	Buckpasser		
			1967年	Queenly Gift	Gay Missile		
		The Prime Minister 1987年	Deputy Minister	Vice Regent	Herbager		
			1979年（加）	Mint Copy	Polamia		
			Stick to Beauty	Illustrious	El Relicario		
			1973年	Hail to Beauty	Crafordie		
		母	Sweet Minister 1997年	Sweet Blue 1985年	Hurry Up Blue	Mr. Leader	My Babu
					1977年	Blue Baroness	Miss Olympia
					Sugar Gold	Mr. Prospector	Princely Gift
					1980年	Miss Ironside	Second Fiddle
産駒一覧　産駒戦歴	産駒戦歴			産駒戦歴	Northern Dancer	Northern Dancer	
					Victoria Regina	Victoria Regina	
					Bunt's Flight	Bunt's Flight	
					Shakney	Shakney	

どうしてもアメリカのダート血統となると早熟で成長力に欠けるようなイメージを持ってしまうが、このシニスターミニスターの産駒に関してはその逆。デビュー当時はそこまで印象的な活躍をすることはなく、条件戦で善戦止まりだったような馬がある時期から一気に強くなってオープン、重賞の常連になる馬が非常に多い。

ざっと例を挙げてみても、インカンテーション、キングズガード、ヤマニンアンプリメ、スリーブランド、テオーケインズなど、まさに遅咲きで一気にパフォーマンスを上げてオープン、重賞で活躍していったような馬ばかりである。

インカンテーション、キングズガード、ヤマニンアンプリメはどれも6歳以上の年齢になりながら重賞で好走した実績がありますし、シニスターミニスターはアメリカのダート血統ながら晩成タイプというのは覚えておいたほうがいい。

【2021年 種牡馬リーディング18位】

ゴールドシップ

現役時代のイメージにそっくりのスタミナタイプを続々輩出、意外に仕上がり早

父	産駒一覧 産駒数 <u>ステイゴールド</u> Stay Gold 1994年 黒鹿（白老町）	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿（米）	Halo 1969年（米）	Hail to Reason Cosmah	Turn-to Nothridchance Cosmic Bomb Almahmoud
			Wishing Well 1975年	Understanding Mountain Flower	Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss
		<u>ゴールデンサッシュ</u> Golden Sash 1988年 栗毛（白老町）	*デイクタス 1967年 栗毛（仏）	Sanctus Doronic	Fine Top Sanelta Worden Dulzetta
母	産駒一覧 産駒数 <u>ゴールドシップ</u> Gold Ship 牡 12歳 父 15歳 母 11歳時産駒 2009年 芦毛（日高町）	<u>メジロマックイーン</u> Mejiro McQueen 1987年 芦毛（浦河町）	<u>ダイナサッシュ</u> 1979年 鹿毛（早来町）	*ノーザンテスト *ロイヤルサッシュ	Northern Dancer Lady Victoria Princely Gift Sash of Honour
			メジロテイターン 1978年 芦毛（伊達市）	メジロアサマ *シエリル	*バーンロン *スポート Snob Chanel
	<u>ポイントフラッグ</u> Point Flag 1998年 芦毛（門別町）	<u>パストラリズム</u> Pastoralism 1987年 黒鹿（静内町）	メジロオーロラ 1978年 栗毛（伊達市）	*リマンド メジロアイリス	Alcide Admonish ヒンドスタン アサマリ
			*ブルリズム 1980年 鹿毛（米）	The Minstrel Gambretta	Northern Dancer Fleur Roberto
			トクノエイト 1978年 黒鹿（門別町）	*トライバルチーフ アイアンルビー	Princely Gift Mwanza *ラークスパー 風玲

2010年代の競馬界では最大のアイドルと言ってもよい稀代の個性馬。ステマ配合というオルフェーヴルらと同じ血統配合になるが、あちらがノーザンファーム育成なのに対してこちらは日高の育成。そのためにサンデー系の瞬発力よりもメジロマックイーンのスタミナが強く引き出されたか。

そんな父の現役時代のイメージそっくりな馬が多く、とにかくキレではなくスタミナに特化したタイプの馬を輩出。そういうスタミナタイプの馬は晩成型で早いうちから動けない馬が多いのだが、この馬の産駒に関してはビッグレッドグループの育成が多いおかげで非常に仕上がりが早い。まだ初年度産駒がデビューしてから2年しか経っていないにも関わらず、札幌2歳ステークスで2年連続で3頭も好走馬を輩出。それだけまだ他馬の体力が完成する前に仕上がってスタミナを活かすことで良さが出るタイプが多いんだろう。

これまでの産駒の賞金上位の馬の名前を見ても、ユーバーレーベン、ウインマイティー、ウインキートスなどどれも牝馬ばかり。どうしても牡馬に出してしまうとスタミナが強すぎてキレに劣る馬が多くなってしまった感じで、ゴールドシップ産駒は牝馬でこそ父の良さを発揮しやすい馬が多い。

ノーザンファームがスピード、キレに特化した生産、育成になってきているところで、これほどまでに仕上がり早くスタミナがある血統は貴重。早い時期の中長距離戦は瞬発力よりもスタミナ勝負になりやすいですし、このゴールドシップのおかげでビッグレッドグループの牝馬クラシック路線の成績は一気に跳ね上がりそうな予感がします。

【2021年 種牡馬リーディング19位】

パイロ

ヘニーヒューズに似たタイプの早熟ダート **1400m** 巧者

父	Pulpit 1994年	A.P. Indy 1989年 (米)	Seattle Slew 1974年 (米)	Bold Reasoning	Boldnesian
			Weekend Surprise 1980年	My Charmer	Reason to Earn
母	Wild Vision 1998年	Preach 1989年	Mr. Prospector 1970年 (米)	Secretariat	Poker
			Narrate 1980年	Lassie Dear	Fair Charmer
		Wild Again 1980年 (米)	Ice capade 1969年	Raise a Native	Bold Ruler
			Bushel-n-Peck 1958年	Gold Digger	Somethingroyal
		Carol's Wonder 1984年	Pass the Tab 1978年	Honest Pleasure	Buckpasser
			Carols Christmas 1977年	State	Gay Missile
				Nearctic	Native Dancer
				Shenanigans	Raise You
				Khaled	Nashua
				Dama	Sequence
				Al Hattab	What a Pleasure
				Dantina	Tularia
				Whitesburg	Nijinsky
				Light Verse	Monarchy
					Nearco
					Lady Angela
					Native Dancer
					Bold Irish
					Hyperion
					Eclair
					Dante
					Clovelly
					The Axe
					Abyssinia
					Gray Phantom
					Literary Light
					Crimson Satan
					Mirabio
					Reverse
					Brighton View

自身は現役時代にアメリカでGIを1勝しかしておらず、戦績的にはそこまで。ただ名種牡馬プルピットの産駒だったこともあり、アメリカでの種牡馬入りが期待されていたが、所有していたゴドルフィンが日本に持ってきてダーレーで種牡馬入り。

血統イメージ通りにアメリカの早熟ダート血統で、2歳戦のうちからコンスタントに活躍できるがどこかのタイミングで一気に頭打ちの成績になって成長が止まる産駒が多い。南関競馬でクラシックまで華々しい活躍を見せたがそこからさっぱりのハセノパイロ、アクアリーブル、中央ではデルマルーヴルあたりも同じイメージだろう。一方でクインズサターン、タービランス、ミューチャリーなど年齢を重ねてもハイレベルなパフォーマンスを出せる馬もいるので、そのあたりは育成次第というところか。

以前はダート1400mでこそという馬が多かったが、育成側がコツを掴んだのか、最近ではデルマルーヴル、ミューチャリー、ケイアイパープル、メイショウハリオなど距離をこなせるタイプの産駒が増えてきている。

【2021年 種牡馬リーディング20位】

リオンディーズ

父	産駒一覧 産駒戦歴 キングカメハメハ King Kamehameha 2001年 鹿毛（早来町）	Kingmambo 1990年（米）	Mr. Prospector 1970年（米）	Raise a Native Gold Digger	Native Dancer Raise You Nashua Sequence
	産駒一覧 産駒戦歴 リオンディーズ Leontes 牡 8歳 父 12歳・母 11歳時産駒 2013年 黒鹿（安平町）	*マンファス Manfath 1991年 黒鹿（愛）	Miesque 1984年	Nureyev Pasadoble	Northern Dancer Special Prove Out Santa Quilla
母	シーザリオ Cesario 2002年 青毛（早来町）	スペシャルウィーク Special Week 1995年 黒鹿（門別町）	Last Tycoon 1983年	Try My Best Mill Princess	Northern Dancer Sex Appeal Mill Reef Irish Lass
		*サンデーサイレンス 1986年 青鹿（米）	Pilot Bird 1983年	Blakeney The Dancer	Hethersett Windmill Girl Green Dancer Khazaeen
		*キロフプリミエール Kirov Premiere 1990年 鹿毛（英）	キャンペンガール 1987年 鹿毛（門別町）	Halo Wishing Well	Hail to Reason Cosmah Understanding Mountain Flower
			Sadler's Wells 1981年（米）	マルゼンスキー レディーシラオキ	Nijinsky *シル セントクレスピ ミスアジャガワ
			Querida 1975年	Northern Dancer Fairy Bridge	Nearctic Natalma Bold Reason Special
				Habitat Principia	Sir Gaylord Little Hut Le Fabuleux Pia

シーザリオの子という超良血ながらクラシックで活躍できずに社台スタリオンには入れず。産駒傾向を見ても父同様に気性の難しそうな馬が多く、マイル以下の距離で活躍する馬が多い。繰り返すが超良血なのできっかけさえあればブレイクしそうで、エピファネイアやサートゥルナーリアの今後の種牡馬としての活躍次第で代替種牡馬として価値が上がるかも。

リプレーザやマイヨアポアのように芝もダートもどちらも走る馬が多く、前向きな馬が多いからか距離はある程度のところで限界があるタイプが多い。現状は距離は1800mぐらいまででダートも走る前向きな産駒が多いイメージで。

【2021年 種牡馬リーディング21位】

ブラックタイド

ディープインパクトの下位互換もキタサンブラックで全て使い果たした感じ・・・

父	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿（米）	Halo 1969年（米）	Hail to Reason 1958年	Turn-to	Royal Charger Source Sucree
			Cosmah 1953年	Nothirdchance	Blue Swords Galla Colors
母	産駒一覧 産駒戦歴 ブラックタイド Black Tide 牡 20歳 父 15歳・母 10歳時産駒 2001年 黒鹿（早来町）	Wishing Well 1975年	Understanding 1963年	Cosmic Bomb	Pharamond Banish Fear
			Mountain Flower 1964年	Almahmoud	Mahmoud Arbitrator
母	*ウインドインハーヘア Wind In Her Hair 1991年 鹿毛（愛）	Alzao 1980年	Lyphard 1969年（米）	Promised Land	Palestinian Mahmoudess
			Lady Rebecca 1971年	Pretty Ways	Stymie Pretty Jo
母		Burghclere 1977年	Busted 1963年（英）	Montparnasse	Gulf Stream Mienon
			Highclere 1971年	Edelweiss	Hillary Dowager
母				Northern Dancer	Nearctic Natalma
				Goofed	Court Martial Barra
母				Sir Ivor	Sir Gaylord Attica
				Pocahontas	Roman How
母				Crepello	Donatello Crepuscle
				Sans Le Sou	Vimy Martial Loan
母				Queen's Hussar	March Past Jojo
				Highlight	Borealis Hypericum

大種牡馬ディープインパクトの兄という血統背景から、自身は現役時代にほとんど活躍できないながらも種牡馬入り。初期の産駒からそこそこのアベレージで活躍馬を出していた感じで、その最高傑作が誰もが知っているキタサンブラックというわけだ。

キタサンブラックを出したことでそこからの種牡馬人生は順風満帆かと思いきや、それ以降がさっぱり活躍馬を出せなくなってしまった感じで、もうキタサンブラックで種牡馬としてのエネルギーを全て使い果たしてしまった感じが。

最近は芝よりもダートの方が勝利数も多くなってきましたし、もはやディープインパクト産駒の全兄という存在感はほとんどなくなってきています。繁殖牝馬の質が低いという点もありますが、ディープインパクト産駒よりは決め手に欠けるパワータイプが多いです。

【2021年 種牡馬リーディング22位】

クロフネ

芝でもダートでもバテずにじわーっとだらーっと伸びる

父	French Deputy 1992年 (米)	Deputy Minister 1979年 (加)	Vice Regent 1967年	Northern Dancer	Nearctic
			Mint Copy 1970年	Victoria Regina	Natalma
母	Blue Avenue 1990年	Mitterand 1981年	Hold Your Peace 1969年	Bunt's Flight	Menetrier
			Laredo Lass 1971年	Shakney	Victoriana
		Classic Go Go 1978年	Pago Pago 1960年	Speak John	Bunt's Lawless
			Classic Perfection 1972年	Blue Moon	Broomflight
		Eliza Blue 1983年	Ice capade 1969年	Shakney	Jabneh
			Corella 1978年	Speak John	Grass Shack
				Blue Moon	Prince John
				Matrice	Nuit de Folies
				Pompilia	Eight Thirty
				Never Bend	Blue Grail
				Mira Femme	Nasrullah
				Nearctic	Lalun
				Shenanigans	Dumpty Humpty
				Roberto	Mlle. Somebody
				Catania	Nearco
					Lady Angela
					Native Dancer
					Bold Irish
					Hail to Reason
					Bramalea
					Pride of Kidare
					Chubin

自身はNHKマイルカップで芝のGIを勝利し、賞金面で天皇賞(秋)に出られなかったことで使った武蔵野ステークスとジャパンカップダートを大楽勝。芝とダートどちらも圧倒的な走りを見せたが、その両方に共通しているのが「とにかくバテずにずっと伸びる」というキャラクターだろう。

クロフネ産駒だけでなくヴァイスリージェント系全般に言えることだが「周りが減速するレースで伸び続けられる」というのがこの血統のセールスポイント。直線の長い東京コースでじわーっと伸びることからNHKマイルカップやヴィクトリアマイルで好相性の血統となっていますし、ダートでもスパツとはキレないがじわーっと伸びる馬ばかりを輩出している。ダートの代表産駒であるティエムジンソクもまさにそんな感じの馬だろう。

バテないという強みがある反面で決め手に欠けるので芝の上級レースではキレ負けすることが多い。そんなわけでGI級は「牝馬」でなおかつ「短距離」の馬ばかりなんだろう。

ダートでもじわっとバテない強みを活かすためには揉まれない外枠が必須条件。内枠で揉まれこむような競馬では何もできない馬が多い印象です。

【2021年 種牡馬リーディング23位】

エイシンフラッシュ

父親は突然変異の例外で、産駒はあくまでもキングズベストの特徴を受け継ぐ

父	King's Best 1997年	Kingmambo 1990年 (米)	Mr. Prospector	Raise a Native	Native Dancer
			1970年 (米)		Raise You
			Miesque	Gold Digger	Nashua
			1984年		Sequence
産駒一覧 産駒戦歴	<u>エイシンフラッシュ</u> Eishin Flash 牡 14歳 父 10歳・母 10歳時産駒 2007年 黒鹿 (千歳市)	Allegretta 1978年	Lombard	Agio	Northern Dancer
			1967年	Promised Lady	Special
			Anatevka	Espresso	Prove Out
			1969年	Almyra	Santa Quilla
母	*ムーンレディ Moonlady 1997年 黒鹿 (独)	Platini 1989年	Surumu	Literat	Prince Chevalier
			1974年	Surama	Belle Sauvage
			Prairie Darling	Stanford	Acropolis
			1984年	Prairie Belle	Babylon
		Midnight Fever 1991年	Sure Blade	Kris	Birkhahn
			1983年	Double Lock	Alameda
			Majritat	Konigsstuhl	Birkhahn
			1984年	Monacchia	Lis

自身は2010年の日本ダービーを勝利。上がり32.7の鬼脚を繰り出して勝利したようにキレッキレの瞬発力を武器にして活躍していた馬だった。だが、血統背景を見るとそのキャラクターが本質にあるとは思えず、藤原厩舎の育成のおかげで突然変異的に生まれた瞬発力モンスターだったと考えるべきか。

その産駒は基本的に父エイシンフラッシュではなく祖父キングズベストに似た晩成のスタミナタイプばかりが出ている印象で、アーデントリー、ココロノトウダイのように地味ながらバテずに伸びてくるタイプを量産している。

唯一の例外は勢司厩舎が育成したカヴァルという馬で、この馬は東京コースでやたらに速い上がりを連発するようなタイプで父エイシンフラッシュにそっくりな馬だった。ノーザンファームが力を入れていないのでスタミナタイプばかりが出ているが、育成牧場や入る厩舎によっては第二のカヴァルのような馬が出てくる可能性もある。

【2021年 種牡馬リーディング24位】

ヴィクトワールピサ

一線級は牝馬ばかり、イメージは溜めてズドン！

父	産駒一覧 産駒戦歴 ネオユニヴァース Neo Universe 2000年 鹿毛（千歳市）	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿（米）	Halo 1969年（米）	Hail to Reason Cosmah Understanding Mountain Flower	Turn-to Nothridchance Cosmic Bomb Almahmoud Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss
	産駒一覧 産駒戦歴 ヴィクトワールピサ Victoire Pisa 牡 14歳 父 7歳・母 14歳時産駒 2007年 黒鹿（千歳市）	*ポインテッドパス Pointed Path 1984年 栗毛（英）	Wishing Well 1975年	Sharpen Up Doubly Sure Shantung Boulevard	Atan Rocchetta Reliance Soft Angels Sicambre Barley Corn Pall Mall Costa Sola Native Dancer Raise You Nashua Sequence
母	*ホワイトウォーターアフェア Whitewater Affair 1993年 栗毛（英）	Machiavellian 1987年（米）	Mr. Prospector 1970年（米）	Raise a Native Gold Digger	Hail to Reason Cosmah Hoist the Flag Natalma Crepello Sans Le Sou
		Much Too Risky 1982年	Coup de Folie 1982年	Halo Raise the Standard	Doutelle Paving Stone Kliron Phoenissa Hard Tack Padus
			Bustino 1971年	Busted Ship Yard	
			Short Rations 1975年	Lorenzaccio Short Commons	

初年度産駒からジュエラーを出したまでは良かったが、その後は一頭も GI 馬を出すことができず、特に牡馬で大物を出すことができなかったのが致命的。ネオユニヴァース系統らしく気性に不安のある馬が多く、その点で牡馬よりも牝馬の方が溢れんばかりの闘志を末脚に変換できる分で活躍が目立っている感じが。

牝馬の活躍が目立つと書いた通りで、2020年時点の総賞金上位4頭はスカーレットカラー、ジュエラー、テラノヴァ、パールコードと牝馬が独占。しかもスカーレットカラーが顕著だったが、気性面に難があるのでじっくり構えて溜める騎乗じゃないとダメな馬が多数で、スカーレットカラー以外にもウィクトーリア、レッドアネモス、サムシングジャスト、ブレイキングドーンなど同じようなイメージの馬が多い。「牝馬」で「溜めてズドン」のイメージで付き合いたい血統だ。

2021年のセントライト記念を勝ったアサマノイタズラも牡馬とはいえ溜めてズドンタイプ。アサマノイタズラが田辺騎手に乗り替わりで一変したり、スカーレットカラーが岩田康誠騎手がずっと乗っていたことを考えても騎手を選ぶ血統だろう。

【2021年 種牡馬リーディング 25 位】

アイルハヴアナザー

ロベルトを持っている米国クラシック血統、顕著な叩き良化型

父	Flower Alley 2002年 (米)	Distorted Humor 1993年 (米)	Forty Niner 1985年	Mr. Prospector File	Raise a Native Gold Digger Tom Rolfe Continue
			Danzig's Beauty 1987年	Danzig Sweetest Chant	Northern Dancer Pas de Nom Mr. Leader Gay Sonnet
母	*アイルハヴアナザー Ill Have Another 牡 12歳 父 7歳・母 7歳時産駒 2009年 栗毛 (米)	Princess Olivia 1995年	Lycius 1988年 (米)	Mr. Prospector Lypatia	Raise a Native Gold Digger Lyphard Hypatia
		Arch 1995年 (米)	Dance Image 1990年	Sadler's Wells Diamond Spring	Northern Dancer Fairy Bridge Vaguely Noble Dumfries
母	Arch's Gal Edith 2002年	Force Five Gal 1994年	Kris S. 1977年 (米)	Roberto Sharp Queen	Hail to Reason Bramalea Princequillo Bridgework
			Aurora 1988年	Danzig Althea	Northern Dancer Pas de Nom Alydar Courtly Dee
母			Pleasant Tap 1987年 (米)	Pleasant Colony Never Knock	His Majesty Sun Colony Stage Door Johnny Never Hula
			Last Cause 1985年	Caucasus Last Bird	Nijinsky Quill Sea-Bird Patelin

ビッグレッドグループが新時代のサンデーサイレンスを目指してアメリカから輸入してきた大物種牡馬。ビッグレッドグループは芝のクラシック路線での活躍を期待したのかもしれないが、もう血統イメージ通りのフォーティナイター系のスピード持続力とロベルトを持つことによるスタミナに特化した産駒ばかりが出ており、全く切れないスタミナタイプしか輩出できていない。

とにかくこの種牡馬はロベルトを持っているという点が重要。ロベルトの血が主張しすぎている感があり、叩いて叩いてスタミナをつけて徐々に良化していく産駒が非常に多い。ざっと代表産駒をあげてみても、アナザートゥールス、マイネルユキツバキ、メイショウワザシなど地味ながら叩き上げでオープンまで行ったような馬ばかりということがわかるだろう。デビュー当時は未勝利で勝ちあぐねるような地味な戦績な馬でも、とにかくレース数を使っていくとスタミナがついてきてあれよあれよと出世する馬が多い印象。アイルハヴアナザー産駒らしい成長曲線はしっかりと意識をしたほうがいい。

そんな使いつつ成長していく血統だけに休み明けは基本的に走りません。いったん休養を挟むと筋肉が緩んでしまっパフォーマンスを落としますが、そこから使い込んでいくことによって徐々にスタミナが戻ってきて良化していきます。

【2021年 種牡馬リーディング26位】

ゴールドアリュール

日本のダートに恐るべき適性を見せる亜種サンデーサイレンス系

父	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿 (米)	Halo 1969年 (米)	Hail to Reason 1958年	Turn-to	Royal Charger Source Sucree Blue Swords Galla Colors Pharamond Banish Fear Mahmoud Arbitrator Palestinian Mahmoudess
			Cosmah 1953年	Nothirdchance Cosmic Bomb Almahmoud	
母	産駒一覧 産駒戦歴 ゴールドアリュール Gold Allure 牡 22歳 父 13歳 母 6歳時産駒 1999年 栗毛 (追分町)	Wishing Well 1975年	Understanding 1963年	Promised Land Pretty Ways	Stymie Pretty Jo Gulf Stream Mienon Hillary Dowager Nearco Lady Angela Native Dancer Almahmoud Aristophanes Trevisa Nantallah Rough Shod Northern Dancer Flaming Page Val de Loir Her Honor Vienna Noble Lassie Never Bend Cherokee Rose
	*ニキーヤ Nikiya 1993年 鹿毛 (米)	Nureyev 1977年 (米)	Mountain Flower 1964年	Edelweiss Montparnasse Nearctic Natalma Forli Thong Nijinsky Entente Vaguely Noble Shoshanna	
		Reluctant Guest 1986年	Northern Dancer 1961年 (加)	Special 1969年	
			Hostage 1979年	Vaguely Royal 1974年	

父がサンデーサイレンスで母父ヌレイエフという血統背景。決してコテコテのアメリカ血統というわけではなく、この配合の馬からここまでダート適性が高い馬が多く出てくるというのもなかなか凄いところ。それだけ日本のダートがアメリカのダートとは違う特殊な舞台だとも言えるんじゃないだろうか。

自身もキャリア序盤は芝を走っていたように最低限の芝適性は備えている感じで、特に牝馬の産駒ならばフーラブライドを代表するように芝の上級クラスでも走れる馬はいる。一方で牡馬の産駒となると完全にダート向きの馬ばかり。それでもコテコテのアメリカ血統に比べれば瞬発力はある方なので、東京ダート1600mのような脚力も問われる特殊舞台での強さが特に目立っている。

【2021年 種牡馬リーディング27位】

ミッキーアイル

父の特徴が前面に出たスピード特化型の短距離タイプばかりを輩出

父	産駒一覧 産駒数 ディープインパクト Deep Impact 2002年 鹿毛（早来町）	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿（米）	Halo 1969年（米）	Hail to Reason Cosmah	Turn-to Nothridchance
			Wishing Well 1975年	Understanding Mountain Flower	Cosmic Bomb Almahmoud Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss
	産駒一覧 産駒数 ミッキーアイル Mikki Isle 牡 10歳 父 9歳・母 7歳時産駒 2011年 鹿毛（安平町）	*ウインドインハーヘア Wind In Her Hair 1991年 鹿毛（愛）	Alzao 1980年	Lyphard Lady Rebecca	Northern Dancer Goofed Sir Ivor Pocahontas
			Burghclere 1977年	Busted Highclere	Crepello Sans Le Sou Queen's Hussar Highlight
母		Rock of Gibraltar 1999年	Danehill 1986年（米）	Danzig Razyana	Northern Dancer Pas de Nom His Majesty Spring Adieu
			Offshore Boom 1985年	Be My Guest Push a Button	Northern Dancer What a Treat Bold Lad (IRE) River Lady
	*スターアイル Star Isle 2004年 鹿毛（愛）	Isle de France 1995年	Nureyev 1977年（米）	Northern Dancer Special	Nearctic Natalma Forli Thong
			Stella Madrid 1987年	Alydar My Juliet	Raise a Native Sweet Tooth Gallant Romeo My Bupers

ミッキーアイルは現役時代に音無厩舎に所属。音無厩舎といえば逃げる競馬を極端に嫌う傾向で、とにかく差す競馬こそ正義という考え。そんな厩舎に所属していて、常に「上手く溜められれば・・・」というコメントが出ていながら、結局はスピードを活かす競馬でNHKマイルカップとマイルチャンピオンシップでGI2勝。スプリント路線でも活躍できたことを見ても、その武器は圧倒的なスピードだった。

その特徴は産駒にも存分に伝わっている感じで、もう産駒のほぼ全てがマイル以下のレースでしか走っていない。派手な代表例がメイケイエールだが、あそこまで顕著な産駒は珍しいにしてもとにかく走りたい欲求が前面に出るスピードタイプばかりが出ている。母ショウリュウムーンのショウリュウレーヴにしても、兄が長距離戦で活躍しているのにこの馬はマイルでも距離が長いほど。やはりミッキーアイル産駒はスピード特化型だ。

ここまで顕著にスピードタイプの産駒が出ているとなると今後も傾向が変わるとは思えず、狙うべきはクラシック路線ではなくディープインパクト系の短距離血統としての地位確立だろう。

【2021年 種牡馬リーディング28位】

マジェスティックウォリアー

父	A.P. Indy 1989年 (米)	Seattle Slew 1974年 (米)	Bold Reasoning 1968年	Boldnesian	Bold Ruler Alanesian
			My Charmer 1969年	Reason to Earn	Hail to Reason Sailing Home
母	産駒一覧 産駒戦歴 *マジェスティックウォリアー Majestic Warrior 牡 16歳 父 16歳 母 8歳時産駒 2005年 鹿毛 (米)	Weekend Surprise 1980年	Secretariat 1970年 (米)	Poker	Round Table Glamour
			Lassie Dear 1974年	Fair Charmer	Jet Action Myrtle Charm
		Seeking the Gold 1985年 (米)	Mr. Prospector 1970年 (米)	Bold Ruler	Nasrullah Miss Disco
			Con Game 1974年	Somethingroyal	Princequillo Imperatrice
		Spinning Round 1989年		Buckpasser	Tom Fool Busanda
			Dixieland Band 1980年 (米)	Gay Missile	Sir Gaylord Missy Baba
			Take Heart 1983年	Raise a Native	Native Dancer Raise You
				Gold Digger	Nashua Sequence
				Buckpasser	Tom Fool Busanda
				Broadway	Hasty Road Flitabout
				Northern Dancer	Nearctic Natalma
				Mississippi Mud	Delta Judge Sand Buggy
				Secretariat	Bold Ruler Somethingroyal
				Deck Stewardess	Deck Hand Champagne Woman

エーピーインディ系のアメリカクラシック血統。だいたいこのタイプの日本の種牡馬は同じ傾向に出る馬が多く、カジノドライヴやシニスターミニスターとほぼ同じイメージでいいか。アメリカ血統らしく揉まれて嫌気を出すことが良くあり、とにかく叩いて叩いて良くなる馬が多い。現時点での代表産駒のベストウォーリアも高齢になっても活躍できていました。

大型でドカドカ走る馬が多く、エアアルマス、サンライズホープ、ライトウォリアーなどを見ても揉まれる競馬を嫌がる外枠巧者が多い。

【2021年 種牡馬リーディング29位】

ディーブブリランテ

ノーザン生産かどうかで溜めてキレルタイプか長距離スタミナ型かに分かれる

父	産駒一覧 産駒戦歴 ディーブインパクト Deep Impact 2002年 鹿毛（早来町）	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿（米）	Halo 1969年（米）	Hail to Reason Cosmah Understanding Mountain Flower	Turn-to Nothrdchance Cosmic Bomb Almahmoud Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss Northern Dancer Goofed Sir Ivor Pocahontas Crepello Sans Le Sou Queen's Hussar Highlight Nasrullah Lalun Prince John Nile Lily Northern Dancer Special Primera Alcoa Busted Cordovilla Abdos Gaia Mr. Prospector Hopespringseternal Lyphard Produce
	産駒一覧 産駒戦歴 ディーブブリランテ Deep Brillante 牡 12歳 父 7歳・母 8歳時産駒 2009年 鹿毛（新冠町）	*ウインドインハーヘア Wind In Her Hair 1991年 鹿毛（愛）	Wishing Well 1975年		
母		Loup Sauvage 1994年	Alzao 1980年	Lyphard Lady Rebecca Busted Highclere Never Bend River Lady Nureyev Lupe Labus Licata Miswaki Bubble Company	
	*ラヴアンドバブルズ Love And Bubbles 2001年 鹿毛（米）	Bubble Dream 1993年	Burghclere 1977年		
			Riverman 1969年（米）		
			Louveterie 1986年		
			Akarad 1978年		
			Bubble Prospector 1984年		

ディーブインパクト産駒ながら自身は縦長の日本ダービーを先行して持続力を活かして押し切る競馬で勝利。3歳で引退となったので全貌こそわかりませんが本質的にはちょっとディーブ産駒っぽくない馬だったか。

そんな産駒ということではほとんどのファンがイメージを掴めていないと思うのですが、ディーブブリランテ産駒のタイプ分けは主に2つ。ノーザンファーム育成かそれ以外の育成かでタイプ分けできると思います。

<ノーザンファーム育成>

ミッキーブリランテ、リカビトス、ナイトバナレット、アドマイヤスコール、セダブリランテス

<非ノーザンファーム育成>

モズベッコ、ナムラドヴァン、ラブタス

ディーブブリランテは初期のディーブインパクトの後継種牡馬としてスタッドインしたことでわかるように、ノーザンファームはディーブの後継と期待してそのイメージで育成をしたんだと思います。そのおかげかノーザン育成のディーブブリランテ産駒は溜めてキレルイメージの馬が多い。

一方で非ノーザン育成のディーブブリランテ産駒はスタミナ型の異色タイプが多い印象。ただ、これはブリランテ自身がもともとはこういうキャラの馬だったということか。社台スタリオンから出されたので、今後は後者のディーブブリランテの本質を出すスタミナタイプの馬が多くなってきそうです。

【2021年 種牡馬リーディング30位】

サウスヴィグラス

条件問わず周りが減速すればするほどパフォーマンスを上げる

父	End Sweep 1991年 (米)	Forty Niner 1985年	Mr. Prospector 1970年 (米)	Raise a Native	Native Dancer
			File 1976年	Gold Digger	Raise You
母	*サウスヴィグラス South Vigorous 牡 25歳 父 5歳・母 7歳時産駒 1996年 栗毛 (米)	Broom Dance 1979年	Dance Spell 1973年 (米)	Tom Rolfe	Nashua
		Star de Naskra 1975年	Witching Hour 1960年	Continue	Sequence
母	Darkest Star 1989年	Minnie Riperton 1974年	Naskra 1967年	Northern Dancer	Ribot
			Candle Star 1967年	Obeah	Pocahontas
母			Cornish Prince 1962年 (米)	Enchanted Eve	Double Jay
			English Harbor 1957年	Thinking Cap	Courtesy
母				Nasram	Nearctic
				Iskra	Natalma
母				Clandestine	Cyane
				Star Minstrel	Book of Verse
母				Bold Ruler	Rosemont
				Teleran	Camargo
母				War Admiral	Lovely Night
				Level Sands	Poupee
母					Nasrullah
					La Mirambule
母					Le Haar
					Fasciola
母					Double Jay
					Conniver
母					Tudor Minstrel
					Ballochbuie
母					Nasrullah
					Miss Disco
母					Eight Thirty
					Tellaris
母					Man o'War
					Brushup
母					Mahmoud
					Crawfish

これまで見てきた上位種牡馬はほぼ全てが芝の中距離路線を戦場としている馬ばかりだったが、そんな馬たちの中でダート短距離専門ながらこの順位にいるのがサウスヴィグラスの凄さか。

この血統のキャラクターは「とにかく周りが減速すればするほどパフォーマンスを上げる」ということ。スローペースの瞬発戦よりもハイペースでの持続力戦を好み、中央競馬の番組体系の中ではハイペース消耗戦に最もなりやすいダート1200mで圧倒的な成績を誇る。

中央競馬ではダート短距離専用機のような戦績だが、地方競馬ではダービー馬を何頭も出しているように中距離もこなす産駒が多いのがポイント。周りが減速する条件に強いので、中央競馬よりも消耗スタミナ勝負になりやすい地方競馬では育成次第で距離も持つ馬が出てくるんだろう。

アメリカ血統らしく自分のリズムを崩すと脆さがある傾向で、内枠で揉まれる競馬では全く走れない馬が多いが、一方で外枠で揉まれない競馬ができた瞬間に一変することが多い。

前に行ってバテない体力面を押し出す馬が多いために、使って使って良くなる産駒が多い印象。現在の代表産駒であるティエムサウスダンも未勝利を何度か使ってから一気にパフォーマンスを上げてここまで成長してきた。



これからリーディングを賑わす 新興種牡馬たち



【2021年 種牡馬リーディング37位】

ホッコータルマエ

父同様の叩き良化型でキンカメのダート系統として大成しそう

父	産駒一覧 産駒戦歴 キングカメハメハ King Kamehameha 2001年 鹿毛（早来町）	Kingmambo 1990年（米）	Mr. Prospector 1970年（米）	Raise a Native Native Dancer Raise You Gold Digger Nashua Sequence
			Miesque 1984年	Nureyev Northern Dancer Special Pasadoble Prove Out Santa Quilla
	産駒一覧 産駒戦歴 ホッコータルマエ Hokko Tarumae 牡 12歳 父 8歳・母 8歳時産駒 2009年 鹿毛（浦河町）	*マンファス Manfath 1991年 黒鹿（愛）	Last Tycoon 1983年	Try My Best Northern Dancer Sex Appeal Mill Princess Mill Reef Irish Lass
			Pilot Bird 1983年	Blakeney Hethersett Windmill Girl The Dancer Green Dancer Khazaeen
母	産駒一覧 産駒戦歴 マダムチェロキー Madam Cherokee 2001年 鹿毛（浦河町）	Cherokee Run 1990年	Runaway Groom 1979年（米）	Blushing Groom Red God Runaway Bride Yonnie Girl Call the Witness Po'chile
		*アンフオールド Unfoiled 1995年 鹿毛（米）	Cherokee Dame 1980年	Silver Saber Drone Happy Flirt Dame Francesca Francis S. Maid to Rule
			Unbridled 1987年（米）	Fappiano Mr. Prospector Killaloe Gana Facil Le Fabuleux Charedi
			Bold Foil 1981年	Bold Forbes Irish Castle Comely Nell Perfect Foil Sword Dancer Flight Bird

2020年のリーディングは120位。そこから2021年は37位まで急上昇。やはりこの血統は父同様に晩成の叩き上げ血統だった。父も3歳時はそこまで目立つような馬ではなかったが、使っていくうちにどんどん強くなっていき、5歳頃からはもう安定感抜群で全く崩れないダート界のスーパーホースになっていった。

その産駒もいかにも同じようなイメージの馬が多く、新馬戦を圧巻の走りで一発回答するような馬は少ないのだが何度か使っているうちに良化を見せて未勝利を勝ち上がるようなタイプの馬が多い。そんなタイプだと考えれば、まだ2世代しかいないリーディングランキングで上位に来られないのも当然だろう。

キングカメハメハ系のダート系統としては最上位の期待をされていると思いますし、こちらのイメージ通りならば古馬になるにつれてどんどん成績を上げていきそう。数年後には一大勢力になっていてもおかしくないと思います。

【2021年 種牡馬リーディング43位】

ドレフォン

早々に一大勢力を築きつつある社台が導入した新たなるクロフネ

父	Gio Ponti 2005年 (米)	Tale of the Cat 1994年	Storm Cat 1983年 (米)	Storm Bird	Northern Dancer
			Yarn 1987年	Terlingua	Secretariat
母	*ドレフォン Drefong 牡 9歳 父 8歳・母 6歳時産駒 2013年 鹿毛 (米)	Chipeta Springs 1989年	Alydar 1975年 (米)	Mr. Prospector	Raise a Native
			Salt Spring 1979年	Narrate	Gold Digger
	Eltimaas 2007年	Ghostzapper 2000年 (米)	Awesome Again 1994年 (加)	Raise a Native	Honest Pleasure
			Baby Zip 1991年	Sweet Tooth	State
		Najecam 1993年	Tremolino 1984年 (米)	Salt Marsh	Native Dancer
			Sue Warner 1988年	Jungle Mythologic	Raise You
				Deputy Minister	On-and-On
				Primal Force	Plum Cake
				Relaunch	Tom Rolfe
				Thirty Zip	Saline
				Sharpen Up	Mount Athos
				Trephine	Jungle Queen
				Forli	Vice Regent
				Bitty Girl	Mint Copy
					Blushing Groom
					Prime Prospect
					In Reality
					Foggy Note
					Tri Jet
					Sailaway
					Atan
					Rocchetta
					Viceregal
					Quiriquina
					Aristophanes
					Trevisa
					Habitat
					Garvey Girl

社台グループが新たなアメリカ系のスピード血統として導入した新種牡馬。最初は疑問の目で見える人も少なくなかったと思うが、次々と勝ち上がり馬を送り出してジオグリフが早々に重賞も制覇。これから社台グループの中での待遇も上がりそうなので、さらに活躍馬が増えてくるか。

父がストームキャットでヴァイスリージェントの血が強く主張しているような血統で、日本競馬の中ではクロフネとほぼ同じイメージと見て良さそう。芝ダート問わずスピードの持続力を活かして良いタイプが多く、激流の1400mあたりに適性がある産駒が多く出るだろう。もちろんジオグリフのように母系が芝中距離の良血なら芝の一線級の馬が出てくる可能性もある。

※初年度産駒のドレフォンが皐月賞を制覇。カワキタレヴリーがNHKマイルで3着好走。これらの結果を見ても母型や育成次第では日本の芝のトップレベルでもスピード負けしない。

【2021年 種牡馬リーディング59位】

シルバーステート

立ち回りとスピード持続力を活かしてこそその小回り向きディープ系

父	産駒一覧 産駒戦歴 ディープインパクト Deep Impact 2002年 鹿毛（早来町）	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿（米）	Halo 1969年（米）	Hail to Reason Cosmah	Turn-to Nothirchance Cosmic Bomb Almahmoud
			Wishing Well 1975年	Understanding Mountain Flower	Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss
母	産駒一覧 産駒戦歴 シルバーステート Silver State 牡 9歳 父 11歳・母 12歳時産駒 2013年 青鹿（安平町）	*ウインドインハーヘア Wind In Her Hair 1991年 鹿毛（愛）	Alzao 1980年	Lyphard Lady Rebecca	Northern Dancer Goofed Sir Ivor Pocahontas
			Burghclere 1977年	Busted Highclere	Crepello Sans Le Sou Queen's Hussar Highlight
母	*シルヴァースカヤ Siverskaya 2001年 黒鹿（米）	Silver Hawk 1979年（米）	Roberto 1969年（米）	Hail to Reason Bramalea	Turn-to Nothirchance Nashua Rarelea
		Boubskaia 1987年	Gris Vitesse 1966年	Amerigo Matchiche	Nearco Sanlinea Mat de Cocagne Chimere Fabuleuse
			Niniski 1976年	Nijinsky Virginia Hills	Northern Dancer Flaming Page Tom Rolfe Ridin' Easy
			Frenetique 1973年	Tyrant Femina	Bold Ruler Anadem Le Haar Fast Jane

条件戦で凄まじいスピードを見せつけて幻の重賞馬と言われていた馬。その圧倒的なスピードから重賞未勝利ながらも種牡馬入り。初年度から幸先の良いスタートを切ったことで2022年から種付け料が一気に高騰した。

圧倒的なスピードの持続力を見せた自身の速さを受け継いでいる産駒が多く、立ち回りセンスに溢れていて前々の競馬ができる馬が多い。直線が長いコースよりはスピードと立ち回りセンスを活かせる小回り向きに見えますし、小回り1800m-2000mや1400mに適性が高いタイプが多く出そうだ。

【2021年 種牡馬リーディング85位】

キタサンブラック

自身の現役時代と同じくこちらの想像以上の種牡馬になるかも？

父	産駒一覧 産駒戦歴 ブラックタイド Black Tide 2001年 黒鹿（早来町）	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿（米）	Halo 1969年（米）	Hail to Reason Cosmah	Turn-to Nothridchance
			Wishing Well 1975年	Understanding Mountain Flower	Cosmic Bomb Almahmoud Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss
母	産駒一覧 産駒戦歴 キタサンブラック Kitasan Black 牡 10歳 父 11歳 母 7歳時産駒 2012年 鹿毛（日高町）	*ウインドインハーヘア Wind In Her Hair 1991年 鹿毛（愛）	Alzao 1980年	Lyphard Lady Rebecca	Northern Dancer Goofed Sir Ivor Pocahontas
			Burghclere 1977年	Busted Highclere	Crepello Sans Le Sou Queen's Hussar Highlight Princely Gift Suncourt
母	産駒一覧 産駒戦歴 シュガーハート Sugar Heart 2005年 鹿毛（門別町）	サクラバクシンオー Sakura Bakushin O 1989年 鹿毛（早来町）	サクラユタカオー 1982年 栗毛（静内町）	*テスコボーイ アンジェリカ	*ネウアービート スターハイネス
			サクラハゴロモ 1984年 鹿毛（早来町）	*ノーザンテスト Lady Victoria	Northern Dancer Lady Victoria
母		オトメゴコロ Otome Gokoro 1990年 栗毛（早来町）	*ジャツジャンジェルーチ 1983年 栗毛（米）	*クリアンバー Honest Pleasure	Ambiopoise One Clear Call What a Pleasure Tulania
			*テイズリー 1981年 鹿毛（米）	Victorian Queen Lyphard Tizna	Victoria Park Willowfield Northern Dancer Goofed Trevieres Noris

自身が突然変異感あふれる馬だっただけに種牡馬としての活躍はどうかと思っていたが、こちらの想像を遥かに超えるハイアベレージで産駒が好走。

持続力型が多いのかと見ていたが、イクイノックスのような決め手も備えた化け物級も出ましたし、持続力型でもヴェールアップという重賞を勝てそうな馬が出てきた。種牡馬としても自身の現役時代のような活躍が期待できるのかもしれない。

※最初の世代をざっくり見た感想としては、父同様に大型でノッシノッシと走る馬が多い。あんまり器用さがありそうな馬は多くなく、ゆったりと自分のリズムで走れる条件や外枠を好みそう。芝なら圧倒的に中京コース向きに見えますし、ダートでも中京1900m や阪神2000mあたりのゆったり走って長く良い脚を活かせる舞台が合う。



リーディング下位ながら
覚えておきたい種牡馬たち



【2021年 種牡馬リーディング31位】

バゴ

ひょっとしたら日本競馬の勢力図を塗り替えたかもしれない欧州の名血

父	Nashwan 1986年 (米)	Blushing Groom 1974年 (米)	Red God 1954年 (米)	Nasrullah Spring Run	Nearco Mumtaz Begum
			Runaway Bride 1962年	Wild Risk Aimee	Menow Boola Brook
母	*バゴ Bago 牡 20歳 父 15歳 母 5歳時産駒 2001年 黒鹿 (仏)	Height of Fashion 1979年	Bustino 1971年	Ship Yard Queen's Hussar	Rialto Wild Violet
			Highclere 1971年	Highlight Nearctic	Tudor Minstrel Emali
	Moonlight's Box 1996年	Nureyev 1977年 (米)	Northern Dancer 1961年 (加)	Natalma Forli	Crepello Sans Le Sou
			Special 1969年	Thong Raise a Native	Doutelle Paving Stone
		Coup de Genie 1991年	Mr. Prospector 1970年 (米)	Gold Digger Halo	March Past Jojo
			Coup de Folie 1982年	Raise the Standard Halo	Borealis Hypericum
					Nearco Lady Angela
					Native Dancer Almahmoud
					Aristophanes Trevisa
					Nantallah Rough Shod
					Native Dancer Raise You
					Nashua Sequence
					Hail to Reason Cosmah
					Hoist the Flag Natalma

自身は2004年に凱旋門賞を制覇。引退後は日本で種牡馬入りとなったが、社台スタリオンではなく日本軽種牡馬協会所属に。それでも初年度から菊花賞ビッグウィークや桜花賞2着のオウケンサクラを出すなど当たりの予感を見せたが、しばらく陽の目を見ない時期が続く。

そんな不遇の時代を一変させたのが女傑クロノジェネシスの登場で、これによって2019年以降のバゴ人気も急上昇しており、2019年産からは朝日杯FS2着で皐月賞とダービーも3着に走ったステラヴェローチェを輩出した。

道悪馬場の宝塚記念を圧勝したクロノジェネシスや道悪馬場のサウジアラビアロイヤルカップを圧勝したステラヴェローチェを見ても、やはり欧州血統らしくタフな馬場は得意。それでも日本の高速馬場にもしっかり対応できているところが素晴らしく、早くからノーザンファームが力を入れていればサンデーサイレンス以降では最大の種牡馬の勢力図異変が起きていたかも？

このように万能で素晴らしい素質を持った種牡馬ではあるが、気性的に前向きすぎる馬が多いのでノーザンファーム以外の牧場が育成すると途端に短距離向きの馬になることが多い。その前向きすぎる気性を末脚の爆発力に変換できるノーザンファーム向きの種牡馬だろう。高齢にはなってきたが、これからさらに大物を出す可能性は十分にある。

【2021年 種牡馬リーディング32位】

ステイゴールド

凱旋門賞制覇に最も近づいたサンデーサイレンス系の異端児

父	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿（米）	Halo 1969年（米）	Hail to Reason 1958年	Turn-to	Royal Charger Source Sucree
			Cosmah 1953年	Nothirdchance	Blue Swords Galla Colors
産駒一覧 産駒戦歴	ステイゴールド Stay Gold 牡 27歳 父 8歳・母 6歳時産駒 1994年 黒鹿（白老町）	Wishing Well 1975年	Understanding 1963年	Cosmic Bomb	Pharamond Banish Fear
			Mountain Flower 1964年	Almahmoud	Mahmoud Arbitrator
母	ゴールデンサッシュ Golden Sash 1988年 栗毛（白老町）	*デイクタス Dictus 1967年 栗毛（仏）	Sanctus 1960年	Promised Land	Palestinian Mahmoudess
			Doronic 1960年	Pretty Ways	Stymie Pretty Jo
		ダイナサッシュ Dyna Sash 1979年 鹿毛（早来町）	*ノーザンテースト 1971年 栗毛（加）	Montparnasse	Gulf Stream Mignon
			*ロイヤルサッシュ 1966年 鹿毛（英）	Edelweiss	Hillary Dowager
				Fine Top	Fine Art Toupie
				Sanelta	Tourment Satanella
				Worden	Wild Risk Sans Tares
				Dulzetta	Bozzetto Dulcimer
				Northern Dancer	Nearctic Natalma
				Lady Victoria	Victoria Park Lady Angela
				Princely Gift	Nasrullah Blue Gem
				Sash of Honour	Prince Chevalier Sylko

自身は現役時代は飛び抜けた活躍ができなかったが、種牡馬としてオルフェーヴル、ゴールドシップ、フェノメノ、ドリームジャーニーなどを生み出して一躍サンデーサイレンス後継種牡馬の筆頭として君臨することになった。

小柄な馬が多いが、独特のピッチ走法のおかげでタフ馬場を苦にしないことが多く、道悪馬場で穴を開けるケースが多い。オルフェーヴルやナカヤマフェスタが凱旋門賞で2着に走ったのを見ても、サンデーサイレンス系の中では異端の血統とみていいだろう。

タフな芝はこなすのだが、馬体が小柄なこともあってダート向きのスタミナはほとんどなく、ダートで活躍する産駒は非常に少ない。この傾向は母父になっても受け継がれているので注意が必要。

【2021年 種牡馬リーディング33位】

マクフィ

父	Dubawi 2002年 (愛)	Dubai Millennium 1996年	Seeking the Gold	Mr. Prospector	Raise a Native
			1985年 (米)	Con Game	Gold Digger
			Colorado Dancer	Shareef Dancer	Buckpasser
			1986年	Fall Aspen	Broadway
母	*マクフィ Makfi 牡 14歳 父 5歳・母 5歳時産駒 2007年 鹿毛 (英)	Zomaradah 1995年	Deploy	Shirley Heights	Northern Dancer
			1987年	Slightly Dangerous	Sweet Alliance
		Green Desert 1983年 (米)	Jawaher	Dancing Brave	Pretense
			1989年	High Tern	Change Water
			Danzig	Northern Dancer	Mill Reef
			1977年 (米)	Pas de Nom	Hardiemma
		Irish Valley 1982年	Foreign Courier	Sir Ivor	Roberto
			1979年	Courtly Dee	Where You Lead
			Irish River	Riverman	Lyphard
			1976年 (仏)	Irish Star	Navajo Princess
			Green Valley	Val de Loir	High Line
			1967年	Sly Pola	Sunbittern
					Nearctic
					Natalma
					Admiral's Voyage
					Petitioner
					Sir Gaylord
					Attica
					Never Bend
					Tulle
					Never Bend
					River Lady
					Klairon
					Botany Bay
					Vieux Manoir
					Vali
					Spy Song
					Ampola

モンテロッソと同じ欧州の名血ドバウィの系統。ドバイワールドカップを勝利したモンテロッソに比べると、こちらはダンジグの色が濃くジャックルマロワ賞を勝利しているようにスピードタイプの血統。日本競馬の中ではキレ不足でスピードの持続力を活かせる舞台に活躍は限定される。

これまでの産駒を見ても、オールアットワンス、ヴィジュネルのような芝の短距離馬か、カレンロマチェンコやヴァーチャリティのようにダートでスピードを活かしてこそその産駒が多い。

持続力には優れているが本質的なスタミナタイプというわけではないので距離に限界はありそう。ダートなら中距離馬も出るだろうが、基本的には1400m ぐらいがベストの産駒が多い。

【2021年 種牡馬リーディング34位】

ノヴェリスト

欧州血統のイメージとは異なり綺麗な馬場での持続力勝負こそがベスト条件

父	Monsun 1990年 (独)	Königsstuhl 1976年	Dschingis Khan 1961年	Tamerlane	Persian Gulf
			Königskronung 1965年	Donna Diana	Eastern Empress
*ノヴェリスト Novellist 牡 12歳 父 19歳 母 8歳時産駒 2009年 黒鹿 (愛)		Mosella 1985年	Surumu 1974年	Tiepoletto	Tornado
			Monasia 1979年	Kronung	Scarlet Skies
母	Night Lagoon 2001年	Lagunas 1981年	Ile de Bourbon 1975年	Literat	Olymp
			Liranga 1973年	Surama	Kaiserkrone
		Nenuphar 1994年	Night Shift 1980年	Authi	Birkhahn
			Narola 1989年	Monacensia	Lis
				Kaiseradler	Reliance
				Motette	Suncourt
				Nijinsky	Aureole
				Roseliere	Virtuous
				Literat	Kaiseradler
				Love In	Motette
				Northern Dancer	Northern Dancer
				Ciboulette	Flaming Page
				Nebos	Misti
				Nubia	Peace Rose
					Birkhahn
					Lis
					Crepello
					Tudor Love
					Nearctic
					Natalma
					Chop Chop
					Windy Answer
					Caro
					Nostrana
					Tuttlinger
					Night Music

ノヴェリストの現役時代の最大のハイライトと言えば、ハービンジャーの作ったレコードを大幅更新する凄まじいパフォーマンスを見せたキングジョージでの圧勝。ハービンジャーの項目のところで書いたが、ヨーロッパのGIレースで活躍したとはいえ、速い時計で活躍したということで欧州競馬の中では軽い馬場向きのタイプ。そのイメージは産駒にも引き継がれているように感じます。

コテコテのドイツの良血ということで産駒も日本の道悪馬場でこそ良さを発揮しやすいと思われがちですが、これを書いている時点で日本の芝の不良馬場では未勝利。一方でラストドラフト、コスモカレンドゥラ、ヴェスターヴァルト、トーセンリスト、メイサウザンアワーなど、良馬場でのキレイの決め手勝負では劣るが、良馬場の持続力勝負でこそ強い馬が多い。

社台グループがサンデーサイレンス飽和時代を打ち破るべく導入した大物ではあったが、結果を出すことができずに2021年にレックススタッドに移籍。普通に考えればこれからは大物が出る可能性はそこまでないだろう。地味にローカル条件でドイツ血統の良さを出していく感じが。

【2021年 種牡馬リーディング35位】

カレンブラックヒル

父	産駒一覧 産駒戦歴 ダイワメジャー Daiwa Major 2001年 栗毛（千歳市）	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿（米）	Halo 1969年（米）	Hail to Reason Cosmah	Turn-to Nothrdance Cosmic Bomb Almahmoud Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss
	産駒一覧 産駒戦歴 カレンブラックヒル Curren Black Hill 牡 12歳 父 8歳・母 11歳時産駒 2009年 黒鹿（安平町）	スカーレットブーケ Scarlet Bouquet 1988年 栗毛（千歳市）	*ノーザンテースト 1971年 栗毛（加）	Northern Dancer Lady Victoria	Nearctic Natalma Victoria Park Lady Angela Spy Song Papila Basu Max La Menina
母	*チャールストンハーバー Charleston Harbor 1998年 鹿毛（米）	Grindstone 1993年	Unbridled 1987年（米）	Fappiano Gana Facil	Mr. Prospector Killaloe Le Fabuleux Charedi
		Penny's Valentine 1989年	Buzz My Bell 1981年	Drone Chateaupavia	Sir Gaylord Cap and Bells Chateaugay Glenpavia
			Storm Cat 1983年（米）	Storm Bird Terlingua	Northern Dancer South Ocean Secretariat Crimson Saint
			Mrs. Penny 1977年	Great Nephew Tananarive	Honeyway Sybil's Niece Le Fabuleux Ten Double

ダイワメジャーをより先行持続型に特化させたような種牡馬で、ほぼ全ての産駒が「前に行って持続力で粘る」競馬で活躍している。芝だとキレ負けする馬が多く、活躍の場はほとんどがダート。デビュー当時は前に行けずで何も見せ場がなかった馬が、先行した途端にいきなり一変することが非常に多く、ダート未勝利戦でのカレンブラックヒル産駒が前に行くタイミングはとにかく気にしたいところ。2021年の活躍馬を見ると、アサヒやラヴケリーのように芝で溜めて強さを発揮するタイプが出てきたのは驚き。

【2021年 種牡馬リーディング36位】

ディスクリートキャット

父	Forestry 1996年	Storm Cat 1983年（米）	Storm Bird 1978年（加）	Northern Dancer South Ocean	Nearctic Natalma New Providence Shining Sun
	産駒一覧 産駒戦歴 *ディスクリートキャット Discreet Cat 牡 19歳 父 7歳・母 11歳時産駒 2003年 鹿毛（米）	Shared Interest 1988年	Terlingua 1976年	Secretariat Crimson Saint	Bold Ruler Somethingroyal Crimson Satan Bolero Rose
母	Pretty Discreet 1992年	Private Account 1976年	Pleasant Colony 1978年	His Majesty Sun Colony	Ribot Flower Bowl Sunrise Flight Colonia
			Surgery 1976年	Dr. Fager Bold Sequence	Rough'n Tumble Aspidistra Bold Ruler Sequence
			Damascus 1964年	Sword Dancer Kerala	Sunflow Highland Fling My Babu Blade of Time
			Numbered Account 1969年	Buckpasser Intriguing	Tom Fool Busanda Swaps Glamour
		Pretty Persuasive 1988年	Believe It 1975年	In Reality Breakfast Bell	Intentionally My Dear Girl Buckpasser Reveille
			Bury the Hatchet 1978年	Tom Rolfe Christmas Wishes	Ribot Pocahontas Northern Dancer Happy Mood

ストームキャット産駒の良血。スピードはあるがバリバリの1200m 向きのスプリンターという感じはなく、芝でもダートでも1400m ぐらいがちょうど良い産駒が出やすい。本質的にスプリンターではないからか、短縮ローテより延長ローテの方が得意。

【2021年 種牡馬リーディング38位】

アドマイヤムーン

父	*エンドスウィープ End Sweep 1991年 鹿毛 (米)	Forty Niner 1985年	Mr. Prospector 1970年 (米)	Raise a Native Gold Digger	Native Dancer Raise You Nashua Sequence
	産駒一覧 産駒戦歴 アドマイヤムーン Admire Moon 牡 18歳 父 12歳・母 5歳時産駒 2003年 鹿毛 (早来町)	Broom Dance 1979年	File 1976年	Tom Rolfe Continue	Ribot Pocahontas Double Jay Courtesy
母	マイケイティーズ My Katies 1998年 黒鹿 (早来町)	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿 (米)	Dance Spell 1973年 (米)	Northern Dancer Obeah	Nearctic Natalma Cyane Book of Verse
	*ケイティーズファースト Katies First 1987年 鹿毛 (米)	Halo 1969年 (米)	Witching Hour 1960年	Hail to Reason Cosmah Thinking Cap Enchanted Eve	Turn-to Nothrdchance Cosmic Bomb Almahmoud Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss
		Kris 1976年	Wishing Well 1975年	Sharpen Up Doubly Sure Nonoalco Mortefontaine	Atan Rocchetta Reliance Soft Angels Nearctic Saximex Pelle Brabantia

自身の現役時代は芝中長距離で活躍したが、松田博厩舎の英才教育によって生み出された突然変異だった可能性が高い。その本質はエンドスウィープ系のスピードタイプで、もう産駒はとにかく短距離馬ばかり。スプリント条件ならばディープインパクト産駒を軽く凌駕する才能を秘めている。ダートは全く走らない。

【2021年 種牡馬リーディング39位】

リアルインパクト

父	産駒一覧 産駒戦歴 ディープインパクト Deep Impact 2002年 鹿毛 (早来町)	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿 (米)	Halo 1969年 (米)	Hail to Reason Cosmah	Turn-to Nothrdchance Cosmic Bomb Almahmoud
	産駒一覧 産駒戦歴 リアルインパクト Real Impact 牡 13歳 父 6歳・母 14歳時産駒 2008年 鹿毛 (安平町)	*ウインドインハーヘア Wind In Her Hair 1991年 鹿毛 (愛)	Wishing Well 1975年	Understanding Mountain Flower	Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss
母	*トキオリアリティー Tokio Reality 1994年 栗毛 (米)	Meadowlake 1983年	Alzao 1980年	Lyphard Lady Rebecca	Northern Dancer Goofed Saximex Pocahontas Crepello Sans Le Sou
		What a Reality 1978年	Burghclere 1977年	Busted Highclere	Queen's Hussar Highlight Prince John Nuit de Folies Eight Thirty Blue Grail
			Hold Your Peace 1969年	Speak John Blue Moon	Native Dancer Raise You Porterhouse Nothrdchance
			Suspicious Native 1972年	Raise a Native Be Suspicious	Intent My Recipe Rough'n Tumble Itis
			In Reality 1964年	Intentionally My Dear Girl	My Esau Miss Olympia Bar Le Duc Solita
			What Will Be 1970年	Crozier Solabar	

ディープインパクト産駒ながら母がインディチャンプの祖母でもあるトキオリアリティー。ステイゴールド産駒でさえマイラーにした血を母に持つことでディープインパクト後継の中でもミッキーアイルと同様に短距離路線に好走が偏っている。1800m以上で活躍する馬はほとんどおらず、マイルを得意としている馬が多いが、その中でも東京芝1600mでの好走率はちょっと異常。傾向が続くうちは覚えておきたい。

【2021年 種牡馬リーディング40位】

マツリダゴッホ

父	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿 (米)	Halo 1969年 (米)	Hail to Reason 1958年	Turn-to Nothirdchance	Royal Charger Source Sucree Blue Swords Galla Colors Pharamond Banish Fear Mahmoud Arbitrator Palestinian Mahmoudess Stymie Pretty Jo Gulf Stream Mignon Hillary Dowager
	産駒一覧 産駒戦歴 マツリダゴッホ Matsurida Gogh 牡 18歳 父 17歳・母 12歳時産駒 2003年 鹿毛 (静内町)	Wishing Well 1975年	Understanding 1963年	Cosmic Bomb Almahmoud Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss	Nasrullah Miss Disco To Market Stepping Stone Ribot Flower Bowl My Babu Roman Ronda Raise a Native Exclusive Crafty Admiral Scarlet Ribbon Nasrullah Lalun Double Jay Conniver
母	*ペイパーレイン Paper Rain 1991年 栗毛 (米)	Bel Bolide 1978年	Bold Bidder 1962年 (米)	Bold Ruler High Bid	
		Floral Magic 1985年	Lady Graustark 1969年	Graustark Inyala Affirmed 1975年 (米)	
			Rare Lady 1974年	Exclusive Native Won't Tell You Never Bend Double Agent	

自身は大の中山巧者で人気薄で有馬記念を制して世間を驚かせたような馬。ところが産駒は特に中山コース向きではなく、逆に平坦コースの方が得意な印象。距離も1400m〜1600mぐらいがベストの馬が多く、これは母父のボールドルーラーが強く出ているんじゃないでしょうか。ビッグレッドグループや岡田スタッド育成の馬が多いというのもありますが、仕上がりが早くて2歳戦から活躍できる馬が多いです。

【2021年 種牡馬リーディング41位】

ダンカーク

父	Unbridled's Song 1993年 芦毛 (米)	Unbridled 1987年 (米)	Fappiano 1977年 (米)	Mr. Prospector Killaloe	Raise a Native Gold Digger Dr. Fager Grand Splendor Wild Risk Aneur In Reality Magic
	産駒一覧 産駒戦歴 *ダンカーク Dunkirk 牡 15歳 父 13歳・母 8歳時産駒 2006年 芦毛 (米)	Trolley Song 1983年	Gana Facil 1981年	Le Fabuleux Charedi	Grey Sovereign Ranavalo Chamossaire Life Hill Olympia Royal Mink Prince Blessed Magic Spell
母	Secret Status 1997年	A.P. Indy 1989年 (米)	Caro 1967年 (鹿)	Fortino Chambord	Boldnesian Reason to Earn Faker Fair Charmer Bold Ruler Somethingroyal Buckpasser Gay Missile
		Private Status 1991年	Lucky Spell 1971年	Incantation Lassie Dear	Native Dancer Raise You On-and-On Ribot Petronella Coppersmith Airacobra
			Seattle Slew 1974年 (米)	Bold Reasoning My Charmer	
			Weekend Surprise 1980年	Secretariat Sweet Tooth	
			Alydar 1975年 (米)	Raise a Native Con Brio	
			Miss Eva 1977年	Sweet Tooth Apolinea	

父アンブライドルズソングで母父エーピーインディ、母シークレットステータスはケンタッキーオークス勝ちというアメリカの超良血。自身がベルモント S2着という実績からもアメリカ的なスタミナに優れた馬で、日本の競馬でスピードの持続力を活かせる条件で強い産駒が多い。メイショウテンスイやペオースのようにダートで持続力を活かして良い馬もいるが、シークレットランやレオビヨンドのように芝の長距離でもスタミナ勝負なら走れる馬が多いのは覚えておきたい。

【2021年 種牡馬リーディング46位】

アジアエクスプレス

父	Henny Hughes 2003年	Hennessy 1993年 (米)	Storm Cat 1983年 (米)	Storm Bird	Northern Dancer
			Island Kitty 1976年	Terlingua	South Ocean
産駒一覧 産駒戦歴	アジアエクスプレス Asia Express 牡 10歳 父 8歳・母 9歳時産駒 2011年 栗毛 (米)	Meadow Flyer 1989年	Meadowlake 1983年	Hawaii	Secretariat
			Shortley 1980年	T. O. Kitten	Crimson Saint
母	Running Bobcats 2002年	Running Stag 1984年	Cozzene 1980年 (米)	Hold Your Peace	Utrillo
		Backatem 1997年	Fruhlingstag 1975年	Suspicious Native	Ethane
			Notebook 1985年	Hagley	Tom Cat
			Deputy's Mistress 1990年	Short Winded	Needlebug
				Caro	Speak John
				Ride the Trails	Blue Moon
				Orsini	Raise a Native
				Revada	Be Suspicious
				Well Decorated	Olden Times
				Mobcap	Too Papi
				Deputy Minister	Harvest Shine
				River Crossing	Wild Cloud
					Fortino
					Chambord
					Prince John
					Wildwood
					Ticino
					Oranien
					Iron Liege
					Dalama
					Raja Baba
					Paris Breeze
					Tom Rolfe
					Cap and Bells
					Vice Regent
					Mint Copy
					Affirmed
					Change Water

自身は朝日杯 FS を勝利して芝の上級レースでも活躍したが、もう産駒は完全にヘニーヒューズのイメージが強くダート1400m以下で走る馬ばかりという感じ。これを書いている2021年5月時点でまだダート1600以上の勝利がないというのは驚きですし、その傾向通りにダート1400m以下でこそ狙いたい血統です。中山ダート1200mで圧倒的な成績を残しており、そういう条件が得意な馬が多い。

【2021年 種牡馬リーディング49位】

フランケル

父	Galileo 1998年 (愛)	Sadler's Wells 1981年 (米)	Northern Dancer 1961年 (国)	Nearctic	Nearco
			Fairy Bridge 1975年	Natalma	Lady Angela
産駒一覧 産駒戦歴	Frankel 牡 13歳 父 10歳・母 7歳時産駒 2008年 (英)	Urban Sea 1989年	Miswaki 1978年 (米)	Bold Reason	Native Dancer
			Allegretta 1978年	Special	Almahmoud
母	Kind 2001年	Danehill 1986年 (米)	Razyana 1981年	Mr. Prospector	Hail to Reason
		Rainbow Lake 1990年	Rainbow Quest 1981年 (米)	Hopespringeternal	Lalun
			Rockfest 1979年	Lombard	Forli
				Anatevka	Thong
				Northern Dancer	Raise a Native
				Natalma	Gold Digger
				Pas de Nom	Buckpasser
				His Majesty	Rose Bower
				Spring Adieu	Asia
				Blushing Groom	Promised Lady
				I Will Follow	Espresso
				Stage Door Johnny	Almyra
				Rock Garden	Nearctic
					Natalma
					Admiral's Voyage
					Petitioner
					Ribot
					Flower Bowl
					Buckpasser
					Natalma
					Red God
					Runaway Bride
					Herbage
					Where You Lead
					Prince John
					Peroxide Blonde
					Boan Rocket
					Nasira

言わずと知れた欧州競馬の歴史でも最高クラスのマイラー。どうもガリレオ系ということで日本の競馬に合うのか心配もされたが、ソウルスターリング、モズアスコット、グレナディアガーズと高速馬場のGIを勝つ馬を多数輩出しており日本の芝への適性は相当に高そう。基本的に距離適性はマイルまでだろうが、あんまりガリレオ系というのを考えずに才能ある馬は高速馬場でもGI級と考えた方がいい。

【2021年 種牡馬リーディング57位】

ネオユニヴァース

父	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿 (米)	Halo 1969年 (米)	Hail to Reason 1958年	Turn-to Nothridchance	Royal Charger Source Sucree Blue Swords Galla Colors
	産駒一覧 産駒戦歴 ネオユニヴァース Neo Universe 牡 21歳 父 14歳・母 16歳時産駒 2000年 鹿毛 (千歳市)	Wishing Well 1975年	Cosmah 1953年	Cosmic Bomb Almahmoud Promised Land Pretty Ways	Pharamond Banish Fear Mahmoud Arbitrator Palestinian Mahmoudess Stymie Pretty Jo
母	*ポインテッドパス Pointed Path 1984年 栗毛 (英)	Kris 1976年	Sharpen Up 1969年	Atan Rocchetta	Gulf Stream Mienon Hillary Dowager Native Dancer Mixed Marriage Rockefella Chambiges
		Silken Way 1973年	Doubly Sure 1971年	Reliance Soft Angels	Tantieme Relance Crepello Sweet Angel Prince Bio Sif
			Shantung 1956年 (仏)	Sicambre Barley Corn	Hyperion Schiaparelli Palestine Malapert Marden Sunny Cove
			Boulevard 1968年	Pall Mall Costa Sola	

自身はミルコ・デムーロの手で皐月賞とダービーを制覇。種牡馬となっても初年度産駒からダービー馬のロジユニヴァース、皐月賞馬のアンライバルドを出し、翌年の産駒のヴィクトワールピサがドバイワールドカップを制するなど順風満帆の滑り出しだったが、その後が全く続かず。気性難の産駒が多くて安定して活躍できる馬を輩出できなかった。2020年のリーディングで30位だったのも逆に驚きで、2021年に関しては5月末時点でまだ1頭も芝のレースで勝利した馬が出てきていない。

【2021年 種牡馬リーディング58位】

ドリームジャーニー

父	産駒一覧 産駒戦歴 ステイゴールド Stay Gold 1994年 黒鹿 (白老町)	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿 (米)	Halo 1969年 (米)	Hail to Reason Cosmah	Turn-to Nothridchance Cosmic Bomb Almahmoud
	産駒一覧 産駒戦歴 ドリームジャーニー Dream Journey 牡 17歳 父 10歳・母 7歳時産駒 2004年 鹿毛 (白老町)	ゴールデンサッシュ Golden Sash 1988年 栗毛 (白老町)	*ディクタス 1967年 栗毛 (仏)	Sanctus Doronic	Fine Top Sanelita Dulzetta Northern Dancer Lady Victoria Ringside Gift Sash of Honour
母	オリエンタルアート Oriental Art 1997年 栗毛 (白老町)	メジロマクウィーン Mejiro McQueen 1987年 芦毛 (浦河町)	メジロテイターン 1978年 芦毛 (伊達市)	メジロアサマ *シエリル	*バーンロン *スモート Snob Chanel Alcide Admonish ビンドスタン アサマツリ
		エレクトロアート Electro Art 1986年 栗毛 (早来町)	メジロオーロラ 1978年 栗毛 (伊達市)	*リマンド メジロアイリス	Northern Dancer Lady Victoria Lt. Stevens Rough Shod Bronze Babu Coastal Trade

オルフェーヴルの全兄という馬で、唯一の産駒の重賞勝ちはミライヘノツバサ。ただ、どうもミライヘノツバサは産駒傾向の中では例外という感じで、本来の産駒の特徴は父様に強烈なピッチ走法で一瞬の脚を使う馬が多い事。トゥラヴェスーラ、アルメリアブルーム、ドリームソルジャー、ドンアルゴス、トオヤリトセイト、ザイツィンガーなど、とにかく溜めれば一瞬のズドンという脚を使える小回り巧者が多い。そのほとんどはピッチ走法でタフ馬場を苦しめない。

【2021年 種牡馬リーディング62位】

タートルボウル

父	Dyhim Diamond 1994年	Night Shift 1980年	Northern Dancer 1961年 (加)	Nearctic Lady Angela
			Ciboulette 1961年	Natalma Chop Chop
				Flares Sceptical
	産駒一覧 産駒履歴 *タートルボウル Turtle Bowl 牡 19歳 父 8歳・母 12歳時産駒 2002年 鹿毛 (愛)	Happy Landing 1984年	Homing 1975年	Windfields Reply
				Sir Gaylord Little Hut
			Laughing Goddess 1973年	St. Paddy Wishful Thinking
				Red God Thetis
				Galivanter Tout Sweet Twenty
		Top Ville 1976年	High Top 1969年	Darius Sipsey Bridge
				Vimy Madriene
			Sega Ville 1968年	Prince Chevalier Noorani
				Tartan La Danse
			Kalamoun 1970年	Grey Sovereign Vareta
				Prince Bio. Palariva
		Kamiya 1975年	Shahinaaz 1965年	Relic Rose O'Lynn
				Prince Bio. Baghichen
母	Clara Bow 1990年			

父も母も母父もマイナー血統で、なおかつ自身も現役時代は GI 勝ち実績もなし。それでも産駒の成績が好調だったこともあって、サンデー飽和の時代に社台グループに輸入された。

タイセイビジョンやビックリシタナモーなどのキレル末脚が使える馬もいるが、基本的にはトリオンフ、アンデスクイーン、パリンジェネシスなどの産駒を見てもわかる通りでキレないスタミナ型の馬を多く輩出されている。

まあこの産駒の一覧を見てもなかなか成功できているとは言い難いが、そんな中で 2017 年に心不全で急死。日本でも繁栄することはできなかった。

【2021年 種牡馬リーディング65位】

スパイットタウン

父	Gone West 1984年 (米)	Mr. Prospector 1970年 (米)	Raise a Native 1961年 (米)	Native Dancer Geisha
			Gold Digger 1962年	Raise You Case Ace
				Lady Glory Nasrullah
	産駒一覧 産駒履歴 Speightstown 牡 23歳 父 14歳・母 5歳時産駒 1988年 (米)	Secrettame 1978年	Secretariat 1970年 (米)	Segula Count Fleet
				Miss Dogwood Nasrullah
			Tamerett 1962年	Miss Disco Princetania
				Imperatrice Tom Fool
		Storm Cat 1983年 (米)	Storm Bird 1978年 (加)	Tudor Minstrel Persian Maid
				Nearctic Natalma
			Terlingua 1976年	South Ocean New Providence
				Shining Sun Bold Ruler
			Chieftain 1961年	Somethingroyal Crimson Satan
		Silken Doll 1980年		Bolero Rose Nasrullah
			Insilca 1974年	Miss Disco Roman
				How Tom Fool
				Busanda Bryan G.
				First Flush
母	Silken Cat 1993年			

とにかく速いゴーンウエストの血を最大限に引き出したようなスピード特化型種牡馬。代表産駒はモズスーパーフレアとマテラスカイというだけでどういう種牡馬かはわかると思うが、もうスピードを前面に押し出す競馬でこそ良さが出る。とにかく自分の競馬さえできれば圧倒的に強いが、崩れると非常に脆いピンかパーな血統。

【2021年 種牡馬リーディング66位】

ダノンレジェンド

父	Macho Uno 1998年 (米)	Holy Bull 1991年	Great Above 1972年	Minnesota Mac Ta Wee	Rough'n Tumble Cow Girl Intentionally Aspidistra
			Sharon Brown 1980年	Al Hattab Agatha's Dawn	The Axe Abyssinia Grey Dawn Agatha
産駒一覧 産駒戦歴 *ダノンレジェンド Danon Legend 牡 11歳 父 12歳・母 5歳時産駒 2010年 黒鹿 (米)		Primal Force 1987年	Blushing Groom 1974年 (米)	Red God Runaway Bride	Nasrullah Spring Run Wild Risk Aimee
母	My Goodness 2005年	Storm Cat 1983年 (米)	Prime Prospect 1978年	Mr. Prospector Square Generation	Raise a Native Gold Digger Olden Times Chavalon
			Storm Bird 1978年 (加)	Northern Dancer	Nearctic Natalma
		Terlingua 1976年		Secretariat Crimson Saint	Bold Ruler Somethingroyal Crimson Satan Bolero Rose
		Caressing 1998年	Honour and Glory 1993年 (米)	Relaunch Fair to All	In Reality Foey Note Al Nasr Gontalon
			Lovin Touch 1980年	Majestic Prince Forest Princess	Raise a Native Gay Hostess Best Nasrullah Queen Hostess

ダート短距離で活躍した地味な種牡馬というイメージだが、半弟はダービー2着のダノンキングリーで叔父にアメリカの名馬ウエストコーストがいることを考えれば相当な良血。一方で父マッショウノは超マイナー血統で世界でも父系で続きそうなのはこの馬ぐらいしか可能性がない。そんな血統なのだが、デビューしてからの産駒の勝ち上がり率が非常に素晴らしく、コアなファンの中で話題になっている存在。父のイメージ通りにダート短距離でスピードを活かす競馬が得意な馬が多いが、案外芝もこなす馬が多く、そのスピードを先行力として活かしてダートの中距離を走る馬もいる。

【2021年 種牡馬リーディング68位】

エイシンヒカリ

父	ディープインパクト Deep Impact 2002年 鹿毛 (早来町)	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿 (米)	Halo 1969年 (米)	Hail to Reason Cosmah	Turn-to Nothrdance Cosmic Bomb Almahmoud
			Wishing Well 1975年	Understanding Mountain Flower	Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss
産駒一覧 産駒戦歴 エイシンヒカリ A Shin Hikari 牡 11歳 父 9歳・母 17歳時産駒 2011年 芦毛 (新ひだか町)		*ウインドインハーヘア Wind In Her Hair 1991年 鹿毛 (愛)	Alzao 1980年	Lyphard Lady Rebecca	Northern Dancer Goofed Sir Ivor Pocahontas
母	*キャタリナ Catalina 1994年 芦毛 (米)	Storm Cat 1983年 (米)	Burghclere 1977年	Busted Highclere	Crepello Sans Le Sou Queen's Hussar Highlight
			Storm Bird 1978年 (加)	Northern Dancer	Nearctic Natalma
		Terlingua 1976年		Secretariat Crimson Saint	New Providence Shining Sun Bold Ruler Somethingroyal Crimson Satan Bolero Rose
		Carolina Saga 1980年	Caro 1967年 (愛)	Fortino Chambord	Grey Sovereign Ranavalo Chenossaire Life Hill
			Key to the Saga 1975年	Key to the Mint Sea Saga	Graustark Key Bridge Sea-Bird Shama

父は芝の中距離で逃げて活躍していた馬だが、どうもストームキャットの血が強く出ているようで産駒は短距離を走る馬が多い。それでもエイシンヒテンやウェイオブライトなど長い距離をこなす馬もいる。明らかに産駒は牝馬優勢。父同様に逃げないとダメな個性豊かな産駒も多いのでどういう戦法を取るかは注意。

【2021年 種牡馬リーディング78位】

アメリカンファラオ

父	産駒一覧 産駒戦歴 Pioneer of the Nile 2006年 (米)	Empire Maker 2000年	Unbridled 1987年 (米)	Fappiano Gana Facil	Mr. Prospector Killaloe Le Fabuleux Charedi
			Toussaud 1989年	El Gran Senor Image of Reality	Northern Dancer Sex Appeal In Reality Edee's Image
母	産駒一覧 産駒戦歴 American Pharoah 牡 9歳 父 6歳・母 6歳時産駒 2012年 (米)	Star of Goshen 1994年	Lord At War 1980年	General Luna de Miel	Brigadier Gerard Mercuriale Con Bird Good Will
			Castle Eight 1984年	Key to the Kingdom Her Native	Bold Ruler Key Bridle Kanumera Little Blessing
	Littleprincessemma 2006年	Yankee Gentleman 1999年	Storm Cat 1983年 (米)	Storm Bird Terlingua	Northern Dancer South Ocean Secretariat Crimson Saint
			Key Phrase 1991年	Flying Paster Sown	Gummo Progne Grenfall Bad Seed
		Exclusive Rosette 1993年	Ecliptical 1982年	Exclusive Native Minnetonka	Raise a Native Exclusive Chieftain Helioflight
			Zetta Jet 1984年	Tri Jet Hase Queen Zetta	Jester Hase Crozier Miami Mood

まだこれまで日本で26頭しか産駒が走っていないのだが、そのうちの2頭がGI勝ちという凄まじいアベレージ。産駒のキャラを見ても典型的なアメリカのスピード持続力タイプという感じで、ワンペースでスピードの持続力を活かすような競馬ができれば相当に強いが、緩急のついた流れなどになるとあっさり崩れる。カフェファラオ、ダノンファラオのどちらも同じようなピンかパーの馬ですし、戦績は凄くても嫌う時には嫌いたい。

【2021年 種牡馬リーディング79位】

イスラボニータ

父	フジキセキ Fuji Kiseki 1992年 青鹿 (千歳市)	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿 (米)	Halo 1969年 (米)	Hail to Reason Cosmah	Turn-to Nothrdance Cosmic Bomb Almahmoud
			Wishing Well 1975年	Understanding Mountain Flower	Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss
産駒一覧 産駒戦歴	イスラボニータ Isa Bonita 牡 11歳 父 19歳・母 9歳時産駒 2011年 黒鹿 (浦河町)	*ミルレーサー Milkracer 1983年 鹿毛 (米)	Le Fabuleux 1961年 (米)	Wild Risk Anguar	Rialto Wild Violet Verso La Rochelle
			Marston's Mill 1975年	In Reality Millicent	Intentionally My Dear Girl Cornish Prince Milan Mill
母	*イスラコジーン Isa Cozzene 2002年 鹿毛 (米)	Cozzene 1980年 (米)	Caro 1967年 (鹿)	Fortino Chambord	Grey Sovereign Ranavalo Chamossaire Life Hill
		Isla Mujeres 1995年	Ride the Trails 1971年	Prince John Wildwood	Princequillo Not Afraid Sir Gayford Blue Canoe
			Crafty Prospector 1979年 (米)	Mr. Prospector Real Crafty Lady	Raise a Native Gold Digger In Reality Princess Roycraft
			Lido Isle 1980年	Far North She Is Gorgeous	Northern Dancer Fleur Drop Valley Gorgeous Gay

黒豹のようなしなやかな馬体だった自身のイメージからももう少し芝でキレル馬が出るかと見ていたが、現状は短距離で一本調子のスピードを押し出すタイプしか出ていない。

かなり母のコジーンの血が強く出ている感じで、また育成が社台フォームというのもキレル馬が出ていない要因かも。現状はマイル以下でスピードと先行力を活かしてこそその馬が多いと考えておいて、これから育成がノウハウを掴んで傾向が変わるタイミングは見極めたい。

【2021年 種牡馬リーディング86位】

ローズキングダム

父	産駒一覧 産駒戦歴 キングカメハメハ King Kamehameha 2001年 鹿毛（早来町）	Kingmambo 1990年（米）	Mr. Prospector 1970年（米）	Raise a Native Gold Digger	Native Dancer Raise You Nashua Sequence
	産駒一覧 産駒戦歴 ローズキングダム Rose Kingdom 牡 14歳 父 6歳・母 9歳時産駒 2007年 黒鹿（安平町）	*マンファス Manfath 1991年 黒鹿（愛）	Miesque 1984年	Nureyev Pasadoble	Northern Dancer Special Prove Out Santa Quilla
母	産駒一覧 産駒戦歴 ローズバド Rosebud 1998年 青毛（早来町）	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿（米）	Last Tycoon 1993年	Try My Best Mill Princess	Northern Dancer Sex Appeal Mill Reef Irish Lass
		ロゼカラン Rose Colour 1993年 鹿毛（早来町）	Pilot Bird 1988年	Blakeney The Dancer	Hothersett Windmill Girl Green Dancer Khazaeen
			Halo 1969年（米）	Hail to Reason Cosmah	Turn-to Nothridchance Cosmic Bomb Almahmoud
			Wishing Well 1975年	Understanding Mountain Flower	Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss
			Shirley Heights 1975年 鹿毛（英）	Mill Reef Hardiemma	Never Bend Milan Mill Hardicanute Grand Cross
			*ローザネイ 1988年 栗毛（仏）	Lyphard Riviere Doree	Northern Dancer Goofed Secretariat Riverqueen

キングカメハメハの系統で母型もバラ一族という超良血。ただ社台スタリオンに入れなかったこともあり、産駒のイメージは自身の現役時代とまるで違う感じ。ロザムール、サペラヴィ、アールクインダムなどキレない持続力型を多数輩出しており、ロザムールやアールクインダムのレースぶりを見ても道悪馬場を一切苦にしないタイプが多い。地味で人気にならない産駒が多いので特徴を覚えておきたい。

【2021年 種牡馬リーディング89位】

フリオーン

父	*ブライアンズタイム Brian's Time 1985年 黒鹿（米）	Roberto 1969年（米）	Hail to Reason 1958年	Turn-to Nothridchance	Royal Charger Source Sucree Blue Swords Galla Colors
	産駒一覧 産駒戦歴 フリオーン Furioso 牡 17歳 父 19歳・母 9歳時産駒 2004年 栗毛（新冠町）	Kelley's Day 1977年	Bramalea 1959年	Nashua Rarelea	Nasrullah Segula Bull Lea Bleebok
母	*ファーズ Fursa 1985年 栗毛（米）	Mr. Prospector 1970年（米）	Graustark 1963年	Ribot Flower Bowl	Tenerani Romanella Alibhai Roman
		Baya 1990年	Golden Trail 1958年	Hasty Road Sunny Vale	Traffic Court Eight Thirty Sun Mixa
			Raise a Native 1961年（米）	Native Dancer Raise You	Polynesian Geisha Case Ace Lady Glory
			Gold Digger 1962年	Nashua Sequence	Nasrullah Segula Count Fleet Miss Dogwood
			Nureyev 1977年（米）	Northern Dancer Special	Nearctic Natalma Forli Thone
			Barger 1983年	Riverman Trillion	Never Bend River Lady Hail to Reason Margarethen

アイルハヴアナザーやエスケンデレヤと同じくロベルトの血が濃く出たダート血統。ロベルトを持つ血統はとにかく叩いて叩いて徐々に力をつけていく傾向で、休み明けもさっぱり走らない。エイコーンやタイキフェルヴールの出世過程や、休み明けがダメで使って良くなって好走というパターンはフリオーン産駒の典型例だろう

【2021年 種牡馬リーディング90位】

モンテロッソ

父	産駒一覧 産駒戦歴 Dubawi 2002年 (愛)	Dubai Millennium 1996年	Seeking the Gold 1985年 (米)	Mr. Prospector Con Game	Raise a Native Gold Digger Buckpasser Broadway
			Colorado Dancer 1986年	Shereef Dancer Fall Aspen	Northern Dancer Sweet Alliance Pretense Change Water
母	産駒一覧 産駒戦歴 * モンテロッソ Monterosso 牡 14歳 父 5歳・母 11歳時産駒 2007年 鹿毛 (英)	Zomaradah 1995年	Deploy 1987年	Shirley Heights Slightly Dangerous	Mill Reef Hardiemma Roberto Where You Lead
			Jawaher 1989年	Dancing Brave High Tern	Lyphard Navajo Princess High Line Sunbittern
		Barathea 1990年	Sadler's Wells 1981年 (米)	Northern Dancer Fairy Bridge	Nearctic Natalma Bold Reason Special
			Brocade 1981年	Habitat Canton Silk	Sir Gaylord Little Hut Runnymede Clouded Lamp
	Porto Roca 1996年	Antelliere 1986年	Salieri 1980年	Accipiter Hogan's Sister	Damascus Kingsland Speak John Liz Piet
			Anntelle 1979年	Loosen Up Soft Quest	Never Bend Dancing Hostess Robber Prince Dual Vista

欧州の良血ドバウィの産駒で非常に地味ながらキャリアを積んでどんどん強くなる馬が多い。産駒のキャラは2つに分類できる感じで、まず1つはリュヌルージュ、モンテグロッソなどのスタミナタイプ。もう1つはラセツトやビリーバーのようにとにかく溜めて一瞬の脚を使うタイプ。この2種類のキャラを覚えて狙えるところで買いたい血統です。

【2021年 種牡馬リーディング97位】

エスケンデレヤ

父	産駒一覧 産駒戦歴 Giant's Causeway 1997年 (米)	Storm Cat 1983年 (米)	Storm Bird 1978年 (加)	Northern Dancer South Ocean	Nearctic Natalma New Providence Shining Sun
			Terlingua 1976年	Secretariat Crimson Saint	Bold Ruler Somethingroyal Crimson Satan Bolero Rose
母	産駒一覧 産駒戦歴 * エスケンデレヤ Eskendereya 牡 14歳 父 10歳・母 11歳時産駒 2007年 栗毛 (米)	Mariah's Storm 1991年	Rahy 1985年 (米)	Blushing Groom Glorious Song	Red God Runaway Bride Halo Ballade
			Immense 1979年	Roberto Imodear	Hail to Reason Bramalea Chieftain Ironically
		Seattle Slew 1974年 (米)	Bold Reasoning 1968年	Boldnesian Reason to Earn	Bold Ruler Alanesian Hail to Reason Sailing Home
			My Charmer 1969年	Poker Fair Charmer	Round Table Glamour Jet Action Myrtle Charm
	Aldebaran Light 1996年	Altair 1991年	Alydar 1975年 (米)	Raise a Native Sweet Tooth	Native Dancer Raise You Omaha-Oh Plum Cake
			Stellar Odyssey 1984年	Northern Dancer Queen Sucree	Nearctic Natalma Robot Cosmah

この血統はアイルハヴアナザーと同様にロベルトの血を持っているというのが最大のポイント。とにかく叩き良化型で休み明けはさっぱり走らない。ダイメイコリーダ、スズカデレヤ、ニホンピロストームなど代表産駒は全て叩き上げで使っていくうちに強くなった馬で、異なるクラスを連勝するような馬なんてほとんどいない。まずはクラス慣れして、徐々に力をつけて気づいたらこちらの想像以上に強くなっていることが多い。

【2021年 種牡馬リーディング106位】

アメリカンペイトリオット

父	産駒一覧 産駒履歴 War Front 2002年 (米)	Danzig 1977年 (米)	Northern Dancer 1981年 (加)	Nearctic Lady Angela Native Dancer Almahmoud Crafty Admiral Olympia Lou Petitioner Steady Aim Mr. Prospector Killaloe Nijinsky Moon Glitter Aristophanes Trevisa Bound Table Secret Promise In Reality Foggy Note Lyphard Tizna
	*アメリカンペイトリオット American Patriot 牡 9歳 父 11歳 母 6歳時産駒 2013年 鹿毛 (米)	Starry Dreamer 1994年	Rubiano 1987年 (米)	Fappiano Ruby Slippers Forli True Reality
母	Life Well Lived 2007年	Tiznow 1997年 (米)	Cee's Tizzy 1987年	Relaunch Tizly Seattle Song Lonely Dancer Nice Dance Sleep Lonely Raja Baba Paris Breeze Tom Rolfe Cap and Bells Seattle Slew Queen Louie Tri Jet Hail Proudly
		Well Dressed 1997年	Notebook 1985年	Well Decorated Mobcap Gold Meridian Tri Argo
			Trithenia 1992年	

自身の現役時代は芝のマイル前後で渋とく末脚を活かす競馬で活躍。大種牡馬ウォーフロントの後継として日本に導入されたが、日本競馬ではキレない持続力タイプを多く出す傾向。溜めてもキレない馬が多いので、とにかく前に行って渋とさを活かしたい。基本は短距離馬が多いが、ビーアストニッシドの重賞激走などを見ても案外距離はそこそこ持つのかも。まあ本質は芝のスプリント血統だろう。

【2021年 種牡馬リーディング116位】

サトノアラジン

父	産駒一覧 産駒履歴 ディープインパクト Deep Impact 2002年 鹿毛 (早来町)	*サンデーサイレンス Sunday Silence 1986年 青鹿 (米)	Halo 1969年 (米)	Hail to Reason Cosmah Understanding Mountain Flower	Turn-to Nothrdance Cosmic Bomb Almahmoud Promised Land Pretty Ways Montparnasse Edelweiss Northern Dancer Goofed Star Line Pocahontas Crepello Sans Le Sou Queen's Hussar Highlight
	産駒一覧 産駒履歴 サトノアラジン Satono Aladdin 牡 11歳 父 9歳 母 12歳時産駒 2011年 鹿毛 (安平町)	*ウインドインハーヘア Wind In Her Hair 1991年 鹿毛 (愛)	Alzao 1980年	Lyphard Lady Rebecca Busted Highclere	Nearctic Natalma New Providence Shining Sun Bold Ruler Somethingroyal Crimson Satan Bolero Rose Raise a Native Gold Digger Dr. Fieger Grand Splendor Northern Dancer Flaming Page My Babu Banquet Bell
母	*マジックストーム Magic Storm 1999年 黒鹿 (米)	Storm Cat 1983年 (米)	Storm Bird 1978年 (加)	Secretariat Crimson Saint Fappiano 1977年 (米)	
		Foppy Dancer 1990年	Terlingua 1976年	Water Dance 1977年	

現役時代は2歳時からクラシック候補として期待されながら花開いたのは5歳の安田記念。全兄弟にラキシスがいるような良血馬で、普通に考えれば芝のマイル～中距離に適性がある産駒が多く出そう。

ただ、母父ストームキャットのディープ後継種牡馬はどれもキレのないジリっぽい産駒を出す傾向で、この馬の産駒も牡馬はそんなタイプが多い。牡馬はパワータイプのダート馬が多く出ている感じで、芝の大物を出すとしたら牝馬のマイル以下か。キズナ産駒に似た感じだが若干距離適性が短いイメージ。